

せい そく きょう
静岡協

2025
新年号

写真・文章提供：浜松市立三ヶ日東小学校



写真・文章提供：下田市立白浜小学校



倫理綱領

一般社団法人 静岡県測量設計業協会

本協会の会員は、測量設計業務の持つ使命と職責の重要性に鑑み、信義に基づいて職務の遂行に当り、職業上の地位の向上及び社会的評価の向上に努めなければならない。そのため、次の事項を遵守するものとする。

1. 資質の向上と品位の保持

会員は、本協会及び会員の社会的地位の向上のため、資質の向上と品位の保持に努めなければならない。

2. 技術者としての権威の保持

会員は、常に技術の向上に努め、発注者に対し、技術的信念の基に業務の遂行に当らなければならない。

3. 公正の維持

会員は、測量設計業務の公共性に鑑み、常に厳正中立の立場に立って業務を行い、公正を欠くことのないよう特段の注意を払わなければならない。

4. 秘密の保持

会員は、発注者から受けた業務の処理上、知り得た秘密を他人に漏らしてはならない。

5. 不当競争の禁止

会員は、業務の受注に当り、不当な競争をしてはならない。

6. 相互協力

会員は、業務の遂行に当り、必要のあるときは、会員相互の技術提携あるいは他の専門家の協力を求めるように努めなければならない。

7. 法令等の遵守及び名誉保持の義務

会員は、法令、本協会の定款、規約、規程その他の定めを遵守し、直接・間接を問わず、自己又は他の会員若しくは本協会の名誉又は信用を傷付けるような行為をしてはならない。

当協会は、静岡県内の測量設計業者で組織し、測量設計業に係る調査研究、研修会等の開催、普及・啓発等に関する事業を行い、測量設計業界の健全な発展及び地位の向上を図るとともに、社会資本整備の推進に貢献し、もって静岡県産業の振興及び発展並びに公共の福祉の増進に寄与することを目的としています。

一般社団法人 静岡県測量設計業協会について

当協会は昭和49年（1974年）に社団法人として設立され、平成24年4月に一般社団法人に移行しました。また、現在に至るまで会員は相互の信頼と結束のもと、社会経済の変化に対応して測量設計業の健全な発展に努めて参りました。

そして、令和6年5月14日、来賓者をはじめ総勢140名により創立50周年記念式典を盛大に行うことができました。これも一重に皆様の変わらない温かなご支援とご鞭撻のお陰であります。

令和6年は、元旦に能登半島地震が発生、8月8日には日向灘沖地震、そして、能登半島における9月20日からの大雨による災害が発生し、甚大な被害や社会経済の停滞を引き起こしました。こうした中、人材確保や働き方改革、改正品確法、頻発かつ激甚的な被害をもたらす自然災害などの対応に取り組み、新型コロナウイルス感染症等の対策を行ない、国のDX（デジタル・トランスフォーメーション）や3次元点群データを活用する静岡県の「VIRTUAL SHIZUOKA構想」に対応して、測量設計業を担う人材の確保・育成や資器材の選択・導入が求められております。

協会は、能登半島地震の公共土木施設災害復旧の支援として、静岡県交通基盤部・（一社）石川県測量設計業協会と連携し、穴水町と災害協定を結び、穴水町へ協会員11社が測量・調査・設計に先発は6月3日から現地入りして、9月20日の増破にも対応しています。

また、県民の安全安心を図るために災害復旧工事に必要な測量設計等業務を迅速かつ円滑に協力できる静岡県交通基盤部はじめ5団体、県内全市町の35市町と「災害時等における測量設計等業務委託に関する協定書」を締結して迅速に取り組んでいます。県外においては、（一社）愛知県測量設計業協会と（一社）岐阜県測量設計業協会の3者による協定を締結し、想定され

る南海トラフ地震による大災害に備え、（一社）熊本県測量設計コンサルタント協会、（公社）鹿児島県測量設計業協会とも応援協定を締結し、さらに、隣接する（一社）山梨県測量設計業協会と（一社）神奈川県測量設計業協会による県境での災害や南海トラフ地震・富士山噴火に備えた3者による応援協定を結び、顔の見える関係などを構築して災害時に備えています。

県は、より迅速に工事が発注できるように静岡県土木設計積算システムの電算帳票作成業務ができる「土木積算SE要領」（平成8年7月）を制定し、協会とともに「土木積算SE」の資格を厳格に管理運営し、いざという時にも協力できる人材を確保しています。

また、子供たちが測量や地図に関心を持ってもらうために「測量の日」中部地区協議会・国土地理院中部地方測量部と年に3校を目標に小中学校での「地図教室」を行うとともに、オンラインによる災害復旧事業技術研修会や賛助会員の協力による講座、（公社）日本測量協会中部支部主催による静岡でのUAVビデオ研修の開催、独占禁止法遵守研修会など開催しています。

開催にあたり測量系・建設系のCPDプログラムの認定を受け、技術者の継続教育にも努めています。

会員各企業においては、人材確保、働き方改革、3次元点群データの活用や新技術の対応、技術者の教育などに取組んでいます。測量設計業の健全な発展を図るためには、皆様のなお一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

年頭にあたり会員一同は、一致団結して地域社会への貢献、技術の向上に取り組む所存であります。

協会では、次のような事業を行っております

1. 測量設計業の技術及び経営の改善に関する調査研究
2. 測量設計業に関する法制及び施策の調査研究
3. 測量設計業の技術、経営等に関する研修会、講習会等の開催
4. 測量設計業の諸制度、経営等に関する情報及び資料の収集
5. 災害緊急時における技術援助の実施
6. 測量業に関する登録申請等に係る助言、指導、相談等
7. 関係機関等への要望、連絡、意見交換、提携等
8. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

目 次

新年のご挨拶	一般社団法人静岡県測量設計業協会会長	服部 剛明	4
新年のご挨拶	協会顧問 衆議院議員	井林たつのり	5
新年のご挨拶	協会顧問 衆議院議員	細野 豪志	6
新年のご挨拶	国土交通省 中部地方整備局 浜松河川国道事務所 事務所長	白井 宏明	7
新年のご挨拶	静岡県交通基盤部長	森本 哲生	8
新年のご挨拶	浜松市長	中野 祐介	9
新年のご挨拶	株式会社建通新聞社 静岡支社長	大掛 仁	10
『新年のご挨拶』	株式会社滝口測量設計 代表取締役	滝口 豪	11
『新年のご挨拶』	株式会社アクシス 代表取締役	青野 充	12
『新年のご挨拶』	株式会社テクノスジャパン 代表取締役	高木 信	13
測量業者の登録制度についてお知らせ			14
創立50周年記念式典等開催			15
令和6年 能登半島地震 災害復旧支援			16
事業概況報告			17
地図教室（令和6年6月12日）	庄内学園（浜松市立庄内小学校）感想文		21
地図教室（令和6年6月18日）	静岡市立井宮北小学校 感想文		23
地図教室（令和6年6月21日）	下田市立白浜小学校 感想文		32
地図教室（令和6年7月2日）	浜松市立三ヶ日東小学校 感想文		34
地図教室（令和6年8月1日）	磐田市南交流センター 感想文		36
理事会			38
委員会活動報告			39
支部情報			44



■ 新年のご挨拶 ■

一般社団法人静岡県測量設計業協会会長 服部 剛 明

新年あけましておめでとうございます。会員の皆さまにおかれましては、新年を健やかに迎えられたことと心からお慶び申し上げます。

昨年(2023年)の1月1日16時10分に、石川県の能登半島地方を震源とする最大震度7(M7.6)の地震が発生し、内陸部で発生する地震としては日本でも稀な大きさの地震となりました。本震により日本海沿岸の広範囲で津波が観測されたほか、各地で土砂災害、火災、液状化現象、家屋の倒壊が相次ぎ、交通網も寸断されるなど、奥能登地域を中心に北陸地方の各地で甚大な被害をもたらしました。交通網の寸断や被災地の地形により自衛隊による救助活動も難航いたしました。元日に発生した大地震ということもあり、帰省者の増加で人的被害が拡大するなど社会的にも大きな影響がありました。全国測量設計業協会連合会の応援要請を受け、穴水町との災害復旧支援に関する協定を結び、当協会員が測量、設計、橋梁点検など支援をいたしました。

さらに、9月21日に台風14号から変わった温帯低気圧、および活発な秋雨前線や線状降水帯などの影響で、石川県の奥能登地方を中心に記録的な豪雨となりました。奥能登地域を中心に河川の氾濫、土砂災害が多発しました。能登半島地震の災害復旧の現場においても土砂崩れなどの破損などが生じ、再測量の依頼があり対応をいたしました。近隣の各県測協の積極的な支援で災害対応を済ませることができたと聞いております。

さて、建設業界においては就業者の高齢化や

少子化の進展により、将来における担い手の確保が喫緊の課題となっております。県や市町などは発注・施工時期の平準化、休日を拡大する等の就労環境の改善、建設産業の魅力を発信し担い手の確保に積極的に取り組んでいます。こうした中、当協会は「地図教室」を開催し地図と測量の重要性を伝え、建設産業の担い手確保に取り組んでいます。子供たちに着実に測量の魅力が伝わっていくことを願うばかりです。

また、測量設計業界にも日頃の測量技術に加えて、三次元データの活用がますます重要となってまいります。協会としてもこれらに対応するため情報の提供や講習会等を開催して会員全体のレベルアップを行ってまいります。将来に向けて時代に遅れることがないように最新技術の習得や作業の効率化に向けて力を合わせて進んでまいります。

本年も当協会のますますの発展と会員皆様のご健勝、ご活躍をお祈りし、年頭のご挨拶といたします。



■ 新年のご挨拶 ■

協会顧問
衆議院議員 井林 たつ の り

新年あけましておめでとうございます。

一般社団法人静岡県測量設計業協会の会員の皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は大変お世話になりありがとうございました。本年も変わらずのご指導をお願い申し上げます。

去年は、元日に石川県能登地方を中心に最大震度7の地震が襲い、建物の倒壊や津波、火災、斜面崩壊などにより、多くの人命や家屋、インフラ等に甚大な被害を及ぼしました。被災地では多数の被災者が避難を余儀なくされ、経済活動にも大きな影響が生じています。さらに、復興途上の9月に記録的な大雨で再び大きな被害を受けました。他の地域でも、地震や風水害が各地で頻発し、大きな被害が発生しています。8月には南海トラフ地震臨時情報が初めて発表され、静岡県内でも自治体や企業が対応に追われるとともに、多くの住民から不安の声が聞かれました。

災害時に適切な応急対応を行うには、現地状況の状況を迅速に把握する必要があり、また、復旧・復興の基礎として被災前及び被災後の正確な国土の情報が不可欠です。それらを支えるのが測量であり、会員の皆様方には平常時及び災害時に御尽力いただいております。先の能登半島地震の対応においても測量やデジタル地図の役割の重要性が改めて認識されました。しかしながら、測量業界においては、技術者の高齢化、若

手技術者の不足が続いており、今後も引き続き、国土の保全や地域社会の健全な発展、適切な災害対応を進めるためには、人材の確保が喫緊の課題です。このような状況の中、昨年、議員立法により、測量技術者の担い手確保を主眼においた改正測量法案を国会に提出し、6月に成立しました。改正法には、測量業の担い手を継続的に確保していくために必要な測量士・測量士補の養成施設の要件の見直しや資格の在り方の検討などが定められています。

また、我が国の国土管理を充実するとともに、災害対応や各種経済活動の基盤となる国土情報基盤整備を進めるため、昨年7月に「国土情報基盤整備促進議員連盟」が発足しました。私も事務局長として、測量や測位サービスに必要な位置の基準の維持管理やデジタル地図の作成・更新の強化のための課題や在り方の検討を積極的に進め、日本の持続的な成長や国民の利便性向上に貢献して参りたいと考えています。

今後とも皆様方のご意見を伺い、皆様が地域の担い手・守り手となり地方経済の発展に全力で取り組めるよう、諸課題の解決と発展に全力を尽くして参ります。結びに、皆様方のご健勝ご多幸を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。



■ 新年のご挨拶 ■

協会顧問
衆議院議員 細野 豪志

新年明けましておめでとうございます。

一般社団法人静岡県測量設計業協会の会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお過ごしのこととお慶び申し上げます。昨年は、第50回衆議院議員総選挙におきまして、私細野豪志がいただいた「141,021」の票数は、自民党公認候補の中で一番（全体では野田佳彦立憲民主党代表に続く二番目）という、大変尊い得票をいただきました。協会の皆様には大変お世話になりましたこと、心より感謝申し上げます。

本年も引き続き、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

測量設計関連業に対する社会的ニーズは、年々高まっております。昨年9月には石破茂首相が就任し、防災庁の設立準備等の施策が進んでおります。特に防災・減災対策においては、道路や橋梁をはじめとする社会インフラの強靱化が大前提になります。これを実現するためには、測量士の皆様による正確なデータの収集が不可欠です。

測量成果はハザードマップにも反映され、地域における住民避難に役立てられています。昨年8月には、気象庁より「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発令され、多くの人々が大規模地震の発生リスクをより身近に感じたことと思います。さらには、昨今の気候変動により、台風や豪雨災害の危険性も高まってきました。そして、富士山周辺地域は、火山噴火の可能性と常に隣り合わせの状況にあります。こうした津波や河川氾濫、火砕流等から身を守るためには、危険箇所や避難場所を正確に示したハザードマップが不可欠になります。

また、被災地の復興を進めるためには、損傷

した道路や橋梁等の早期復旧が必要です。そのためのデータも、測量士の存在なしには手に行うことができません。令和6年能登半島地震の際にも、静岡県測量設計業協会におかれましては、県内の各事業者様を石川県に派遣いただき、誠にありがとうございました。

一方で、昨今の急激な円安や、不安定な世界情勢がもたらした資機材・燃料費等の高騰により、測量設計関連業の皆様は依然として厳しい経営状況に直面しています。さらには、人口減少や働き方改革の進展により、測量士の人手不足も深刻な課題となっております。測量法に基づく登録業者数は、ピークの平成15年以降一貫して減少を続けております。

こうした測量設計関連業を取り巻く各種課題を解決するため、私たち自由民主党は政権与党として政府の施策を推し進めてまいりました。事業者様の経営を安定させるため、地方公共団体に対して計画的な発注を促すことで、業務量の平準化を実現できるよう働きかけを行っております。また、令和5年2月には技術者単価が平均5.4%の引き上げとなり、事業者様が賃上げを行いやすい環境が整備されました。人工知能（AI）等の技術を活用した測量についても、政府として普及を後押ししてまいります。

皆様が静岡県・わが国を支える存在として活躍されるよう、静岡県測量設計業協会と連携しつつ、引き続き各種施策の推進に努めてまいります。本年も貴協会のますますの発展を祈念し、結びのご挨拶とさせていただきます。



■ 新年のご挨拶 ■

国土交通省 中部地方整備局 白井 宏明
浜松河川国道事務所 事務所長

新年あけましておめでとうございます。平素より、国土交通行政の推進にあたり、ご理解とご協力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。昨年は、元旦の能登地方を中心とした地震、7月の山形県・秋田県における前線による出水、8月の宮崎県沖地震に端を発する南海トラフ地震臨時情報の発令、8月の中部地方における台風10号関連の出水、9月の能登地方における大雨被害といった自然災害が発生しました。当事務所では、能登地方へのTEC-FORCEの派遣、臨時情報に関する道路利用者への情報周知や出水時の水防対応等を実施してきたところですが、出水時の情報収集や地震や洪水の被災地の調査や復旧には、地域に根差した静岡県測量設計業協会の皆様との連携・協力が不可欠であり、引き続き、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

測量設計業界に関連の施策について、当事務所の取組を2つ紹介したいと思います。まず、デジタルデータの活用した施策・事業の推進です。例えば、河川分野では、流域の様々なデジタルデータの標準化を推進しているところです。浜松河川国道事務所管内を流れる菊川は、この取り組みのモデル河川に選定されており、現在、距離標などの流域データのデジタル化を行っています。こうした情報の公表は、測量設計業務における護岸設計や流出解析を容易にするといった効果が期待されます。道路分野では、国道1号浜松バイパスにおいて、鉄道交差部についての鉄道事業者との協議で3Dモデルを活用し、

車道と鉄道構造物との離隔や位置関係の確認を行っています。三遠南信自動車道の水窪佐久間道路においては、2次元のみでは確認し難い、複雑な施工条件（地形、河川構造物、トンネル坑口）の検討のため3Dモデルを活用し、構造物位置検討時の課題の確認と共有を行っています。また、施工段階ごとに整理した4Dモデルを作成し、事業を進めるうえでの課題抽出や関係機関協議に活用しています。

次に、働き方改革です。建設産業は我が国の社会経済基盤を支える上で重要な役割を果たしており、施設の維持更新需要や気候変動等の施策課題に的確に対応するため、新たに職業として選ぶ人を増やすとともに就職後長期間携わりたいと思う人が増えるような労働環境の整備を行う必要があります。現在の施策として、時間外労働規制や週休2日工事、建設キャリアアップ対応などの取り組みが推進されているところですが、当事務所におきましても、仕事の進め方の工夫として、休日明け日（月曜日等）は依頼の期限日としない等のウィークリースタンスの遵守、的確な指示の徹底、Web会議のさらなる活用、ファイル共有による同時編集を可能とするバージョン管理など引き続き業界の業務環境の改善に取り組んでまいります。

結びに、貴協会の益々のご発展と、会員各位のご健勝、ご活躍を心より祈念申し上げ、新春のご挨拶とさせていただきます。



■ 新年のご挨拶 ■

静岡県交通基盤部長 森 本 哲 生

新年明けましておめでとうございます。

一般社団法人静岡県測量設計業協会の会員の皆様方におかれましては、新年を健やかに迎えられることとお慶び申し上げます。

また、日頃から、本県の建設行政の推進に当たり、格別の御理解と御協力を頂いておりますことに、厚くお礼申し上げます。

昨年は、1月の能登半島地震に加え、6月の豪雨や8月の台風10号に伴う長雨など、自然災害が激甚化、頻発化しております。県においては、災害は毎年起こりうるということを念頭に、防災体制を整備し、災害に強い安全・安心な県土づくりを推進していく所存であります。そのためにも測量・調査・設計業務に携わる皆様の御尽力が不可欠であります。

貴協会におかれましては、一昨年6月の豪雨災害においても、県との災害協定に基づき、被災した地域の復旧に向けて、まこと速やかなお力添えを頂きました。

改めて申し上げるまでもなく、測量設計業務は、社会資本整備を進めるに当たり、インフラの性能や品質、コスト等を大きく左右する大切な業務であります。さらに、メンテナンスサイクルを適切に回していく上でも大変重要な役割を担っており、今後更なる活躍が期待される業務であります。

一方で、近年、建設産業全体において、就業者の高齢化が進み、将来にわたる担い手の確保が喫緊の課題となっております。

昨年4月から時間外労働の上限規制が建設業にも適用されるとともに、昨年6月には労働者の処遇改善や長時間労働の抑制などを内容とする改正建設業法等が成立するなど、労働環境は

大きな転換期を迎えております。これから建設産業を志す若者にとって、魅力的な業界になるよう、より一層の担い手確保・育成の取組と抜本的な働き方改革を推進していく必要があります。

こうした中で、貴協会におかれましては、毎年、小学校で「地図教室」を行い、地図と測量の重要性を伝えるなど、建設産業の担い手確保に貢献いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

県におきましても、小学生から大学生を対象にした出前講座や現場見学会、建設産業従事者の若手交流会等を引き続き開催し、建設産業の魅力を発信し、更なる若者の入職促進や離職防止に努めてまいります。

また、併せて、工事現場で3次元点群データを活用するなど、ICTを積極的に活用し、測量作業の省力化や安全性向上に努めるほか、公共工事の発注・施工時期の平準化や「ふじ丸デー」の定着化による週休2日の徹底など、働きやすい建設業界づくりに向けた働き方改革を推進してまいりますので、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

会員の皆様方におかれましては、引き続き、業務に関する高度な知識の習得や技術力の向上などに積極的に取り組まれますとともに、"いっしょに、未来の地域づくり。"に向け、測量設計業のより一層の発展に御尽力いただきますようお願い申し上げます。

結びに当たり、貴協会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝、御活躍を心からお祈り申し上げます。年頭の御挨拶といたします。



■ 新年のご挨拶 ■

— 浜松市未来ビジョンと測量設計業への期待 —

浜松市長 中野 祐介

新年明けましておめでとうございます。

一般社団法人静岡県測量設計業協会の皆様におかれましては、平素より、本市の建設行政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

近年は、地震、台風や豪雨などの自然災害が頻発し、全国各地で甚大な被害が生じております。本市も例外ではなく、特に一昨年6月の豪雨では、河川の氾濫や土砂災害の危険に直面しました。貴協会の皆様には、迅速かつ的確な現地調査、被害状況の把握、復旧計画の策定など、多岐にわたりご尽力いただきましたことに、心より感謝申し上げます。改めて貴協会の皆様の存在が、災害対策の中核を担っていることを実感いたしました。

さて、昨今のデジタル技術の急速な進歩により、社会全体が大きな変革期を迎えています。測量設計業においても、ドローンやAI、3Dスキャナーなど、先端技術導入が進み、より正確で効率的な業務が可能になっています。これらの技術革新は、今後の市政運営に好影響を及ぼすものと考えております。

本市では、浜松市総合計画の基本構想「浜松市未来ビジョン」を策定し、市民が幸福を実感できるまちを目指し、様々な施策を展開しています。中でも「安全・安心・快適」分野の取り組みである「安全な生活基盤づくり」は特に重要なビジョンとして位置づけています。自然災害に対する備えを万全にし、市民が安心して暮らせる環境を整備することは、まちづくりの根幹となります。このビジョンの実現には、技術

革新とそれを活用できる専門知識と経験が必要です。貴協会の皆様のご協力が、浜松市の未来を切り拓く大きな力となるものと感じております。

また、近年の少子高齢化や、若年層の都市部流出により、本市でも人口減少が進行しています。測量設計業においても、次世代の担い手確保が大きな課題であると伺っています。

人口の減少は、まちの活力の喪失に繋がります。まちを持続可能なものにするためには、人口減少の流れを止め、誰もがそれぞれの場面で活躍できる元気な社会を実現することが必要です。

測量設計業において次世代を担う人材確保のためには、若い世代に魅力を伝えるとともに、やりがいを感じられる労働環境を整備することが重要です。本市としても、貴協会の皆様と連携を図り、地元教育機関との協働やキャリア支援などを通じて、次世代の担い手確保に向けた取り組みを進めてまいります。

人口減少局面に対応し、次世代の担い手確保に繋げるために、貴協会の皆様にも存分に力を発揮していただき、皆様と共に「元気なまち・浜松」の実現を目指してまいります。

結びに、貴協会の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



■ 新年のご挨拶 ■

株式会社建通新聞社 静岡支社長 大掛 仁

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

一般社団法人静岡県測量設計業協会の会員の皆様におかれましては、日頃より地域社会の発展に大きく寄与されていることに深く敬意を表します。また、去年は協会が創立50周年という節目の年を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。50年という長い歴史の中で、地域に根差し社会基盤の整備に尽力されてきたことは、まさに誇るべき成果と言えます。

2024年もまた、われわれ建設業界にとって挑戦の連続でした。特に自然災害や気候変動への対応に関する社会の期待が高まる中で、インフラ整備や再生可能エネルギーを活用したプロジェクトに取り組む必要性が、より増してきました。測量や設計業務は、こうした新たな課題に対応するための第一歩となるものであり、皆様の役割はますます大きくなっています。

2025年は、社会全体がさらにデジタル化し、効率的で持続可能なインフラ開発が求められる時代となります。これに伴い、私たち建設業界も革新と変化に柔軟に対応しなければなりません。特に、デジタルツインやBIM/CIMなどインフラ分野のDX（デジタル・トランスフォーメーション）の導入により、設計から施工、管理までの一貫した効率化が進んでいくことでしょう。

その中でも、測量・設計業はこれらの革新を支える土台です。正確な地形データの取得、環境への配慮、そして地域の特性に即した設計は、インフラ整備の根幹を成すものです。これから

も、皆様の高度な専門知識と技術力が、より質の高い社会基盤の構築に貢献していくことを期待しています。

さらに、地域社会との協働が一層重要なテーマとなる年でもあります。地域のニーズや課題を深く理解し、社会に貢献することが、持続可能なインフラ整備には不可欠です。静岡県は地震や津波といった自然災害のリスクを抱える地域であり、その対策を踏まえた防災インフラの整備は最優先課題です。測量や設計の精度向上が、防災計画の基盤を強化し、県民の安全・安心に直結することを忘れてはなりません。

また、昨今の働き方改革や人材不足といったテーマにも対応していく必要があります。特に若手技術者の育成と定着は、業界全体の持続的な発展につながる重要な課題です。協会では、働きやすい職場環境づくりや業界の地位向上に積極的に取り組み、未来を担う人材が安心して活躍できる業界へ転換を図っておられます。今後も、新しい技術を積極的に取り入れ、持続可能な社会基盤の整備に貢献されますことを期待します。

結びにあたり、創立50周年を超えて、新たな一步を踏み出す貴協会のますますのご発展と、会員の皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます。

『 新 年 の ご 挨拶 』

株式会社滝口測量設計 代表取締役 滝 口 豪

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様方におかれましては、新しい年を健やかにお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

令和5年11月より前社長の市野篤史に代わり代表取締役に就任いたしました、滝口 豪と申します。会社の代表者という立場になりましたが、私一人の力では何もできません、社員皆で知恵を出し合い、異なる視点や意見を集め最善の意思決定ができるよう努めていく所存でございますので、よろしく願いいたします。

弊社は昭和50年の創業以来、静岡県東部地区を中心に営業して参りました。今年50周年の節目の年を迎えることとなり、先々代・先代が築き上げて参りましたものを、次の世代がこの先の50年も続けていけるよう、より一層精進いたしますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

昨年は1月1日の能登半島地震に始まり、続けて各所での豪雨災害など、自然災害による被害が年々大きくなっているように感じております。災害が発生すると、建設業界が初動対応し早期復旧を目指し業務を遂行するという役割を担っておりますが、できることなら災害など起きなければ良いのと思ひ、毎年夏の時期になると天気予報の台風進路予測を見ながら“来るな来るな”と念じておりました。しかしながら異常気象による豪雨災害や、やがて来るといわれている南海トラフ地震などに備え、災害発生時の早期対応ができるようにすることが、建設コンサルタントの使命と捉え、日々の準備を怠

らないようにと考えております。

若い世代は建設業界を敬遠しているようですが、この業界無くしてこの先のインフラ整備や維持管理を進めていくことはできません。社会資本整備に携わる企業として、測量や土木設計の社会貢献度の高さや、先人が築いた歴史や伝統を次の世代に伝えていくことができるように日々研鑽し、地域の皆様に信頼されるよう技術力の向上と地域社会の発展に努めて参ります。

人手不足が深刻な問題となっている昨今ですが、昨年に平成7年度の高校新卒採用を頂くことができました。人材確保が難しい現状ですので頂いたご縁を大切に、一人前の技術者としてだけでなく、人としての成長にも繋がるように育てて参りたいと思ひます。

結びにあたり、会員の皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

『 新 年 の ご 挨 拶 』

株式会社アクシス 代表取締役 青 野 充

新年あけましておめでとうございます。一昨年、静岡県測量設計業協会に入会いたしました株式会社アクシス代表の青野です。皆様のご支援とご協力により、充実した一年を過ごすことができました。本年も引き続き、変わらぬご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

弊社は、前身である個人土木設計事務所を経て、2007年に株式会社アクシスとして設立されました。設立後まもなく、リーマンショックや公共事業削減などがあり、建設業界の大変厳しい経済環境に直面しながらも、今期で18期を迎えることができました。これもひとえにお取引いただいた皆様のご支援のおかげであり、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、昨年一昨年に引き続き、私たちの業界にとって自然災害の怖さを再認識する年となりました。特に、能登半島地震では、なかなか進まない被災地の状況を目の当たりにして、復興の重要性を改めて感じました。静岡県からも多くの技術者が派遣され、業界の重要性を強く実感した一年でした。東南海・南海地震や豪雨災害などへの備えとして、災害に強い町づくりのために、技術の研鑽を続け、業界全体で強い責任感を持って、役割を果たしていきたいと考えています。

近年では業界全体でデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進が叫ばれるようになりました。弊社もこの波に乗り遅れないように、業務の効率化と精度の向上を図る必要があると感じています。具体的には、UAV（ドローン）

などによる測量やVIRTUAL SHIZUOKAなどのオープンデータをうまく活用し、さらに、これからは人工知能AIの活用も多くされていくことになると考えています。AI技術を活用することで、既に点検の分野では効率化と精度の向上の効果がでていていると感じています。

数年前までは業務量過多により残業が多く、ひたすら業務をこなしていましたが、近年の働き方改革の流れを受けて、弊社でも働き方改革を実践しています。まずは自分を含め社員の意識改革から始め、勤怠管理システムを導入しました。現在は労働時間の削減や休暇の取得に取り組んでおり、これにより技術者のモチベーション向上を期待しています。また、このような取り組みにより業界全体がより良くなればと願っています。

測量設計業界の未来は多様化し、より高度な技術と知識が求められていくと考えています。私どもも、日々研鑽を積んで、技術力向上と地域社会への貢献に努めて参りたいと思います。

最後になりますが、会員の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げますとともに、本年も引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。私たちの協会が、皆様とともにさらなる飛躍を遂げることを心より願っております。

『 新 年 の ご 挨拶 』

株式会社テクノスジャパン 代表取締役 高 木 信

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様方におかれましては新年を健やかに迎えられたことと、謹んでお慶び申し上げます。旧年中は格別のご厚情を賜り誠にありがとうございました。

2024年3月より弊社は、一般社団法人静岡県測量設計業協会に入会させていただきました。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しく願いいたします。

私は、1993年よりこの職を続けさせていただいており30年余が過ぎました。その間、静岡県東部地域の測量・設計会社の営業の方に大変お世話になりました。私もすでに65歳を過ぎ、地元のために何が出来るのかここ数年ずっと考えておりました。会社を設立してからはとにかく社業優先で営業してまいりました。

振り返れば地元には何も貢献してこない現実がありました。その様な中で当協会に入会させていただきながら、会員の皆様方と一緒に汗を流させていただきたいと思うようになり入会を希望するに至りました。

能登半島では昨年1月の地震災害と9月の豪雨災害が発生し、多くの方が被災されインフラが壊滅的に破壊されました。一刻も早い復旧・復興を望みます。弊社の所在地沼津の伊豆半島も同様です。伊豆半島地域の高規格道路の共用率は40%未満であり、能登半島の90%におよびません。いつこの地域に甚大な災害がおよぶかわかりませんが早急なインフラ整備が必要だと思えます。

昨年の衆議院選挙では、自民党・公明党の連立政権が過半数割れになり、政策として進められてきた国土強靱化の予算が削られるか心配です。また、海外各国の武力衝突も日本の政治力が落ち国際紛争に巻き込まれないか不安がつのります。

話は変わりますが昨年のデータによりますと、全業種の新入社員の30%以上が3年以内に退職するそうです。せっかく入社していただいた社員が辞めていくのは会社経営上大変です。社員が辞めない様な環境作りが大切なのかと思っています。2008年のリーマンショックの時から良い人材に来てもらえるのは今しかないと思い、積極的に入社していただき今日に至っております。昨年から人材育成センターを立ち上げ、先輩社員を先生として研修し、半年後に各部署に配置しております。私は高校・大学と野球をやってきましたので、おかげ様でたくさんの方と知り合う事が出来ました。弊社では軟式野球ですが静岡県東部で4チームが活動しており、野球に特化した形で人材確保をしております。この事が良いか悪いかわかりませんが、人がいないよりはいた方が良い、いたなら育つよう共に歩んでいければ良いという信念で採用しております。その人達と共に社会資本整備に携わる仕事が出来ればありがたいと思います。

結びになりますが、会員の皆様の益々のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

測量業者の登録制度についてお知らせ

(一社) 静岡県測量設計業協会

1. 登録業者は、財務に関する書類等の提出義務があります。

決算終了後3カ月以内に、国土交通省中部地方整備局に提出することになります。

その場合、(一社) 静岡県測量設計業協会を経由してくださるようお願いいたします。

[部数：正1部・写1部（県外に営業所がある場合、各営業所の所在する都道府県分の部数の写）+協会控1部]

提出書類は、左端をホチキスで綴じて提出してください（袋とじにする必要はありません）。

提出された書類は原則として返却されません。

登録申請書等の用紙は、国土交通省のホームページよりダウンロードできます。

当協会のホームページで、「関連書類ダウンロード」のページをご案内しております。

2. 登録の有効期間と更新手続について

登録の有効期間は5年間です。5年毎に登録の更新手続が必要となります。

有効期間満了の日90日の前から30日前までに登録の更新申請をしなければなりません。

3. 変更届が必要となる変更事項について

商号又は名称

- ・営業所の名称及び所在地
- ・法人の場合、資本金又は、出資の額及び役員の氏名
- ・個人の場合は、その氏名
- ・主として請け負う測量の種類
- ・定款

4. 登録後の手続について

- (1) 年次決算報告（毎年） 財務に関する書類の簡素化（令和2年4月施行）
- (2) 変更届（変更発生時）
- (3) 登録更新（5年毎）

5. 登録証明願について

登録証明書発行のためには、次の条件を満たしていることが必要です。

- ①財務報告や、変更があった場合の変更登録申請が提出済であること。
- ②原則として、前回の発行から3カ月以上経過していること。

A4判で作成し2部提出してください。様式は国土交通省ホームページの「関連書類ダウンロード」からダウンロードできます。

返信用封筒（切手貼付の上）を同封してください。

提出先 〒460-8514 名古屋市中区三の丸2丁目5番1号 名古屋合同庁舎第2号館
中部地方整備局 建政部 建設産業課 測量業係

TEL (052) 953-8572 FAX (052) 953-8605

令和6年5月14日 創立50周年記念式典等開催



京都大学大学院工学研究科教授 藤井 聡氏による記念講演の様子

当協会は、昭和49年に設立し令和6年に50周年を迎えた。
式典を静岡市葵区内のグランディエール ブケトーカイで開催。
関係官庁・関連団体からの来賓83名、会員・賛助会員54名と
合わせて137名が参加して節目の50周年を盛大に祝った。
また、創立50周年記念誌は令和6年12月に発刊した。



開会挨拶 服部剛明会長



記念祝賀会の様子



令和6年 能登半島地震 災害復旧支援

石川県鳳珠郡穴水町と災害協定を結び
協力会員 11 社による測量・設計支援を実施

石川県鳳珠郡穴水町を対口支援する静岡県に合わせ、県交通基盤部と情報交換し、理事会で支援を決定した。

穴水町地域整備課へ県から派遣された職員2名や（一社）石川県測量設計業協会とオンライン会議を実施して、被災状況や災害調査方針・箇所、衣食住の環境を確認し協力会員は支援の準備をした。

また、穴水町に派遣された県職員の協力により穴水町との災害協定を令和6年6月3日に締結した。この日に、静測協災害復旧支援隊第1陣2社が現地入りして町と協議を行った。

穴水町支援隊は11社で、静岡県内の仕事がある中、測量だけ、測量と設計の両方、設計だけと出来る範囲で協力をしてくれた。そして、9月の集中豪雨の増破にも10月に出向き対応した。

協力期間は、6月3日から始まり測量は8月いっぱい概ね終えて、設計は年内を目標に取り組んだ。

協力会員は、会員名簿順で、株式会社ウィンディーネットワーク・静岡コンサルタント株式会社・株式会社東海建設コンサルタント・株式会社東日・株式会社コンサルタントセンター・昭和設計株式会社・服部エンジニア株式会社・大鐘測量設計株式会社・株式会社中部総合コンサルタント・株式会社日進・株式会社フジヤマ

以上 11社

南海トラフ地震に備え、今回の支援についての記録を作成して会員等の参考資料にしていく。

下記は、現地活動状況写真



令和6年度定時総会

日時 令和6年5月14日(火)
12時～13時35分
場所 グランディエール ブケトーカイ
(葵タワー4階) シンフォニーⅡ
(静岡市葵区紺屋町17-1)

総会概要

1. 司会者 鈴木正明副会長が定款第18条第1項の規定により出席者数を発表し、総会が成立していることを報告した。
2. 開会の辞 服部剛明副会長
3. 会長挨拶 藤山義修会長
4. 来賓祝辞 静岡県交通基盤部長森本哲生様から祝辞を頂きました。
5. 会長表彰 永年勤続企業職員会長表彰受賞者12社36名の代表者に表彰状と記念品を贈呈した。また、静測協図書館優秀作品賞5作品を代表して、(株)フジヤマの片橋直樹様に表彰状と記念品を贈呈した。続いて、永年勤続企業職員代表者の昭和設計(株)の飯田彌雅様が謝辞を述べた。
6. 議長選出 定款第16条の規定により、吉田測量設計(株)の石野直之氏を選出した。
7. 議題
 - 第1号議案 令和5年度事業報告について
 - 第2号議案 令和5年度収支計算書及び監査報告について
収支計算書 貸借対照表
財務諸表に対する注記
正味財産増減計算書
財産目録 監査報告書
 - 第3号議案 令和6年度事業計画(案)について
 - 第4号議案 令和6年度収支予算書(案)について
 - 第5号議案 役員改選について
付帯決議案
 上記は原案のとおり可決、承認された。



会長挨拶



総会の様子



来賓挨拶



永年勤続等職員会長表彰



図書館優秀作品会長表彰



永年勤続等職員表彰代表者謝辞

「測量の日」関連行事の 「地図教室」の開催

今年度も会員、広報・経営改善委員会と先生らの協力により下記の4校と1地域センターで開催することが出来た。協会からは「学校周辺の今昔航空写真パネル1枚とマンガ学習本「伊能忠敬」1冊、小冊子「地図と私たち」と「日本分県パズル」を受講者全員に贈呈した。

内容は、はじめに国土地理院中部地方測量部中野測量課長等が測量と地図の講話を行い、当協会員が江戸時代に全国を歩いて日本地図を製作した伊能忠敬のお話と測量器械を使った測量体験学習を行ない、最後にドローンによる記念撮影を行った。

- 令和6年6月12日 浜松市立庄内学園小学校
4年生 50名参加
 - 6月18日 静岡市立井宮北小学校
6年生 94名参加
 - 6月21日 下田市立白浜小学校
4・6年生 18名参加
 - 7月2日 浜松市立三ヶ日東小学校
4年生 29名参加
 - 8月1日 磐田市南交流センター
3～6年生 13名参加
- 会員のべ16社の職員が測量実習を担当した。



白浜小 地図クイズ



三ヶ日東小 ドローンによる校舎の撮影を視聴



磐田市南交流センター 歩測測量実習



庄内学園（浜松市立庄内小学校） 測量地図の講話



伊能忠敬のお話



井宮北小

歩測との距離の確認

第1回技術講習会

令和6年9月27日、静岡県静岡労政会館6階大ホールにおいて、公益社団法人日本測量協会中部支部との共催による「実務者セミナー（ビデオ講習会）～一歩進んだUAV活用事例～」を開催した。

（参加者57名）



技術委員長挨拶



研修会の様子

第2回技術講習会

令和6年10月21日、賛助会員の株式会社豊富の協力のもとで静岡県総合研修所もくせい会館の富士ホールと体育館を使い、「測量のためのドローン操縦研修会（基礎講座）」を開催した。（参加者9名）



座学



実技

土木積算定期講習会

令和6年7月5日、静岡労政会館大ホールにおいて、静岡県交通基盤部技術調査課の協力により、「土木積算S・E」資格認定者（令和6年8月6日現在636名）のうち、資格の有効期限が2025年3月31日までの者を対象に行った。（受講者223名）

講習内容は、「土木工事標準積算基準」、「農地工事設計積算システム」及び「土木設計積算システム」である。



調査委員長の司会



会長挨拶



県技術調査課長挨拶



講義の様子

土木積算初級（前期）（後期）講習会

令和6年9月18日静岡県静岡労政会館6階大ホールにおいて、静岡県交通基盤部技術調査課の協力を得て、前期講習会を実施した。（受講者58名）

令和5年10月1日静岡県静岡労政会館6階大ホールにおいて、後期講習会と確認試験を行った。（受講者58名）



前期講師挨拶



前期講師挨拶2



後期会講師挨拶



前期講習会の様子



後期講習会の様子

国土交通省県内7事務所と 静岡県建設関連業3団体との意見交換会

令和6年9月4日、（一社）静岡県測量設計業協会（正副会長・専務理事、技術及び災害対策委員長）、（一社）静岡県建設コンサルタンツ協会、（一社）静岡県地質調査業協会の建設関連業3団体は、中島屋グランドホテル（静岡市葵区）において、国土交通省7出先事務所と意見交換会を行った。



国土交通省県内7事務所との意見交換会

静岡県交通基盤部関係者との 意見交換会

令和6年9月6日、静岡県産業経済会館3階特別会議室（静岡市葵区）において、交通基盤部関係者と意見の交換を行った。また、この議事録は10月2日に会員全員に送付した。



県との意見交換会



会長挨拶



講師講演



研修の様子

ボランティア活動 「中田島砂丘除草作業」

令和6年10月2日、浜松市南区中田島地内の遠州灘海浜公園において、砂地の草地化を防止し、貴重種のカワラハシホトテウの生息環境を維持するために、除草作業を行った。（参加者29名）雑草113kg、ゴミ袋44袋



ボランティア活動集合写真

熊本県・鹿児島県・静岡県各測協による 災害時応援協定に係る意見交換会（浜松市中央区村櫛町）

令和6年10月24日、浜松市中央区村櫛町において意見交換会を行った。
（全体参加者22名 静岡協からは11名参加）



会長挨拶



県からの情報提供



意見交換会

社長研修会（掛川市亀の甲）

令和6年10月10日、中部地方整備局 静岡国道事務所長 椎野 修氏を講師にお迎えして、「令和年度の主要事業について」の演題により1時間の研修を行った。（参加者37名）

R 6.6.12 地図教室 庄内学園 (浜松市立庄内小学校) 感想文



地図教室 

自分が何歩で10mにいけるかとてもおもしろかったです。いもうたただかさんのきょうにはとしかなかたけどいろいろなまかにてきりをはかたりしてとても楽しかったです。ありこつうけいけんかなかなかないのであていなど思いました。知らない地図記号もしてとてもおもしろかったです。三角点  全国にのりあるのはめづはした。 紅林あき 

地図教室 

三角点が10万点もあつてあることかると水しん点が2万点あつてあつて勉強になりました。飛行機とついでいかにきたりつえいた写真を見ながら地図を作れることがわかりました。多くの人に使ってもらうためにいろいろな方ほうでていぎょうしていることがわかりました。地図のせきとく①方位→地図の向き②縮尺→地図のちぢめ方③記号→表し方が勉強になりました。

野澤 みう 



地図教室 

今回一番心にのこしたことは地図の作り方を教えてくださったことです。でもは地図の作り方をよく考えませんでした。言われてみればとても気になったのでとてもいい勉強になりました。また庄内学園に来てください。  ありがとうごさい。 山本 すみ 

駒村玲旺

ぼくは、今日の授業をどうして地図がで
 きるまでも学びました。自分は、いつもなに
 げなくみている地図ですが、その地図を作る
 ことがどれだけ大変かが分かりました。そ
 りとして日本で一番初めに地図を作った人が
 分かりました。その人は、いとうただたかです。
 いとうただたかには、江戸にあって日本地図
 を作ったそうです。いとうただたかさんは、
 十八年で四方キロメートルをあるいたそうで
 自分も初めて知りました。自分は、地図は、
 いろいろあるとたろう、それが作ったんたろ
 う、と思っていました。なのでいとうさんは、
 本堂にすごい人だと思いました。
 そして現在の地図の作り方は、人工衛星
 なんかをつかっています。また、でんしまじ
 りて、いろいろなもので、日本がどれだけの
 たかなどがわかるそうです。そして地図には、
 最後に住所や地図記号を書くのです。自
 分は、こまかにまわして地図をつくるのかと
 思いました。

僕は地図測量教室で、地図を作るのに沢山
 の人が関わっていることを知りました。地図
 は当たり前のように身近にあり、そのありが
 たみや作る人の努力などをあまり感じてきま
 せんでした。ですが、地図測量教室で、その
 ありがたみを知りました。
 自分は、地図は空撮写真だけで作っている
 と思っっていました。実際は、現地に行っ
 て測量をしたり、基準点を利用して観測した
 り、ドローンを利用して観測したりと、様々
 な方法で地図を作図していて、沢山の人が関
 わっていることを知ることができました。
 自分も、鉄道が好きなので、休日鉄
 道と地図について調べてみると、線路の基準
 点測量や、線路の記号など、鉄道と地図は密
 接に関わっていることを深く知りました。
 これからも、地図を見るときなどは、地図
 を作るのに関わってきた人の努力や、そのあ
 りがたみを思い出ししていきたいです。

六三松田蒼生

20 × 20

地図測定教室では、井宮北小学校に来てくれた人たちが、昔の地図の作り方や現在の地図の作り方、歩測の体験や地図記号のクイズなどたくさんのお話を楽しく教えてくれました。特に印象に残っていることは、歩測の体験です。まず、初めて地図を作ったという、伊能忠敬さんのことについて紹介してもらいました。昔の地図の作り方を聞いたときわたしは簡単そうだと思いました。ですがそのあと実際にやっていた「歩測」を体験してみたら中々歩幅が合わなくて正確な距離を測るのが難しく、びっくりしました。なので、すごく正確に地図を作った伊能忠敬さんはすごいと思いました。わたしは、歩測の体験をすることができ、とても楽しかったです。

20 × 20

六一二 石川美月

井宮北小で地図教室を開催してくださいありがとうございます。初めて聞くことがたくさんあり、びっくりしました。聞いてとてもわかりやすい説明で、内容をしっかり覚えることができました。特に印象に残ったのは、今と昔の地図の作り方のちがいです。昔は足で測って地図を書いていたというのを聞いてびっくりしました。大変だったのだと思います。今の地図も、いろんな機械、道具を使って地図を作っていて、さらに写真を撮るとるひとや編集する人など、いろんな人も関わっていて、地図一杉作るのに大変な努力がされているのだとわかりました。特に飛行機から写真を撮っていたと聞いたとき、とてもすごいと思いました。今回、地図を作るのはとても大変なことだと学べたので、地図を大切に使うことができると思います！

本当にありがとうございます。

20 × 20

六一二 谷口夢人

地図測量教室、とても勉強になりました。昔は歩いて地図を測定していたというところは、なんとなく想像していたのですが、あそこまですべて正確に地図を測れるとは思っていませんでした。そして、あそこまで特訓して長い道を歩いてきたことを誇りに思いました。また、現代でも地図を作るためには沢山の工夫や努力があることを知りました。例えば、空から写真を撮る時に建物が映るよう丁度よい高度で写真を撮っていることや地図を繋ぎ合わせて正確な地図を作っていること、全国十箇所を担当して地図を作っていること、難しいことだと分かると、自分も作らなければならないことだと思えます。今度からその努力を思い出し、ありがとうございます。丁寧な地図をお使いました。この度は本当に測量教室を開催してくださり誠にありがとうございました。僕も役に立つものを作

六二白鳥悟史

20 × 20

このたびはぼく達の小学校で、地図測量教室をやってくいただき、ありがとうございます。教えてくださったみなさまのお話は、とてもわかりやすかったです。とても心に残ったのは、日本の最初の地図の話です。話を聞くまでは、「地図は三十年前くらいに機械を使って作ったのかな」と思っていました。江戸時代の伊能忠敬さんが歩いて測って日本の正確な地図を作ったと聞き、とてもびっくりしました。ぼくが歩測を体験したときには十数メートルの距離をはかるのに数メートルの誤差がでてしまったので、歩測であれだけ正確な地図を作った伊能忠敬さんはすごいなと思いました。地図測量教室を通して、地図をつくるための難しさや最初の地図についてのおどろきの真実などを知ることができました。とても楽しかったです。これからは地図に注目してみたいと思います。

六二深沢幸介

20 × 20

私は、地図測量講座を受けて印象に残ったことは、二つあります。

一つ目は、地図の作り方についてです。持ってきてくださった測量機械は、私も帰り道にたまたま使っているのを見たことがあったので、とてもおどろきました。でも何に使っているかは知らなかつたので、実際に体験してみよう理解することができました。また、地図の作り方を改めてし、かり聞いて、地図を作るまでにはたくさん段階があることを知りました。

地図作りは、思ったよりも大変だなと思いました。

二つ目は、地図作りへの約束です。最初は私も聞いて、約束なんがあるのかなと思いましたが、ですが、お話を聞いて、地図作りの約束には地図を見る人の気持ちを考えて作られているんだなと思いました。見やすくするのでは、地図記号を使っている工夫されているなと思いました。これから地図を見ると、教えていた事意識しながら見たいです。

井宮北小学校 六年 望月唯花

地図測量教室

私は、地図測量教室で気づいたことは、地図の作り方がちがうということと、江戸時代は、きよりを測るのに、歩測、間縄、てら、さ、を使っていたころを思い出しました。伊能ただたがさんは、正確な地図を作るために全国を歩いたというころは、スゴイと思います。私が分かったことは、

現在の作り方は、単純だと分かります。日本も色々な機械を取り入れたと分かりました。例えば、空中写真をとって、し、う、正など。

地図測量教室で分かったことは、江戸時代から現在まで色々な取り組みをし、色々な工夫をされたというところと、分りました。これから、かんば、て、ください。

ぼくは、地図測量横座とヤッて、また知ら
ないことも分かったし、なによりも楽しかった
なと思えました。
地図がでるまでには、人なことをして、いゝの
かとか、地図が作られるまでの歴史を教ても
うたりました。日本地図を最初に作った
人の地図は、すごく正確で、今の地図とほとんど
ずれはなくて、すごいな、と思いました。
そして、自分たちで測量としました。測量と
して、すごく難しかったです。たし計算とすまの
が、大変
で、ずれたりして、一回測り直したの
で、すごく大変でした。今まであり前のよう
に地図を見てきたけれど、こんなに大変な
ことだ、と思いました。

井宮北小学校 6年3組
橋本 秀真

今日やった地図二つでいろいろな事を知
れました。
今回二の地図二つで自分は、伊能忠敬の事
に、びっくりしました。
時に、すごかったのは、すべて歩いて計った
というその体力が、がんばる心を伊能忠敬さん
におしえてもらえたような気がしました。
そして、もう一つ歩いて10mを確かめること
が一番楽しかったです。
「ちやんと全部ある」といふのが、なると、楽し
かったです。

ぼくは、最初集中するために目をこらした
せんせんちがう所に、いつてしまつて、少しは
かしかつたのですが、一回目でせいこうで、ま
れしかつたです。

井宮北小学校
六年三組 美穂ノ介



R6.7.2 地図教室 浜松市立三ヶ目東小学校 感想文

地図教室のみなさんへ
 7月2日に地図教室を開いてくれてありがとうございます。
 わたしは、地図を作るときに、せんやうのひこうきを使、て地図を使、ていらことがはじめて知りました。
 地図は文字だけじゃ分りやすく見えないけれど、色や地図記号などをつけるとよく分りやすくなる感じが勉強になりました。
 とくに一番うれしかったことは、プレゼントやドローンで写真をとったことです。都道行東バスは楽しい、勉強もできるから、とてもうれしかったです。地図教室のみなさん、ありがとうございます。



地図教室のみなさんへ
 7月2日に地図教室を開いてくれてありがとうございます。ぼくはじめて知ったことは、地図を作る時飛行機で写真を撮ってまわることです。ぼくは地図を作るとき、地図にのせるところを写真でとって、系統にかくと思、ていま、だから知ることができたです。楽しかったことは、自分の一歩の長さを測ったことです。ぼくははかりがないけど、はかりで測、ていま、また家で10m歩いて自分の1歩の長さをはかりたいです。地図教室のみなさん、ありがとうございます。これからがんば、てく、てい、ま。

地図教室のみなさんへ
 あたしが地図教室で学んだことはたくさんあります。はじめて知ったことは水源地です。高この目にするしに、さいることをはじめて知りました。水源地がどのかに行くみたいと思いました。楽しかったことは、10mの道を歩いたことです。自分の1歩の長さが35cmと、はじめて知りました。歩いてみたりして楽しかったです。うれしかったことは、さいごに、ドローンが空を飛びまわってくれたことです。ドローンは1回しか見たことがなかったので、写真も撮、ていま、うれしかったです。わたしは地図教室で勉強になったことは、1つ、もう1つ、わたしが日本地図をはじめて知、ていま、ことです。都道行東のバスで、都道行東のことを、も、と、な、って、ま、な、り、ま、し、て、い、ま、い、たい、です。





地図教室のみなさんへ
 7月2日に土曜教室で地図の作り方や水はん点が京都駅にあることかを考えたり割り算がどうございました。わたしが地図教室で楽しかったことは、歩そくのたつた人になろうで10mの道とびつつの道を何で歩くかを考えたことです。今日は22歩で2日は21歩でした。一番多かったのは30のメが来て地図を見たことで30のメが来て見ると地図がりたいさに見えてすごかったです。さいごにはたさんの物をくれてありがとうございました。わたしはもった都道府県すべて都道府県を塗っておぼえたいです。地図教室のみなさんも地図を作ることをがんばってください。

地図教室のみなさんへ
 7月2日に土曜教室を開いてくれてありがとうございました。おかげで地図に少しのびもりました。わたしが一番おもしろかったことは自分の歩ははかされること。10mの道を歩いて計算するだけで自分の歩ははか分かるのがおもしろかったです。何mかわらなくても自分の歩いて計算すれば何mか予想できるのはおもしろいと思います。わたしは歩いて歩いたことは、地図はじめてきたこと地図を作るとき、作られた伊能忠房さんが日本全国の地図を作ったことにはおもしろい。こんなにはかかっています。ありがとうございます。ドローンのごつめいも楽しかったです。これからも地図を作るのをはかしてください。



R6.8.1 地図教室 磐田市南交流センター 感想文

国土地理院の人たちのお仕事や、三角点などを教えてくれてありがとうございました。

私が一番気になったのは、国土地理院の人たちの仕事です。飛行機で写真を撮ってそこから手作業で地図を書いていたのがすごかったです。いろいろなところで見られる地図がこうして作られているということがわかっておもしろかったです。

自分たちが歩数で距離を測ったら、10mくらいでもずれていたのが伊能忠敬さんが日本中を歩いてほぼ正確に地図を作っていたことすごいなと思いました。地図のことを教えてくれてありがとうございました。

6年 金指 凜



地図教室

地図教室でいろんな地図記号とか三角点や水準点を知れてよかったです。

1番心に残ったことは、伊能ただたかさんの歩数で地図をつくったことです。1日に40km歩いてたことがすごかったです。

次は、地図をつくる時のことです。飛行機や三角点などを使って地図をつくっていることがすごかったです。クイズの時は、僕が知らない記号を知れてよかったです。

国土地理院のお仕事がすごい大変なことがわかりました。水準点や三角点、大切なことを知れてよかったです。ドローンで集合写真をとれてよかったです。

6年 金指 快音



地図のつくり方や記号などいろんなお話をしてくださり本当にありがとうございました。

私はもともと地図のことはあまり興味がありませんでした。でも、地図教室をやって、地図を作るのはとても大変で、作っている人はすごいと思いました。でも地図をつくった伊能忠敬さんは自分で作るのもすごかったです。なぜなら自分も歩数で距離を測ってたら全く距離が違かったからです。

今日はいろいろな体験や地図のことを教えてくれてありがとうございました。

白浜小学校 6年森 心奈



私は、心に残ったことが、3つあります。1つ目は、歩測です。

今まで歩幅を気にした事が無かったので歩幅を調べてたら、私の歩幅は67cmも、あるんだと、知れてとても嬉しかったです。

2つ目は、地図記号クイズです。

15問中12問合っていたり、知らない記号の意味を知れてとてもうれしかったです。私が生きていくために参考になりました。こうした学習は他の勉強に役立つと私は思いました。

3つ目は、伊能忠敬さんが、1人で地図を作ったことがすごいなと思いました。しかも1日で40キロも歩いたのが凄いなと思います。本物とほぼぴったりだったのすごいです。

忙しい中わざわざ来てくれてありがとうございました。

6年 柏谷 心深



地図教室で凄と思った所は、歩測やドローンです。

歩測のときは、普通に歩いて自分の1歩の距離が分かるところが凄いと思いました。そのあと秘密の道を歩いたら、実際の距離と同じくらいになって嬉しかったです。日常生活の中でも生かしていきたいです。

ドローンの凄と思ったところは、ちっちゃいの空から撮影出来るところです。あんなに近くで、大きなドローンを見たのは初めてだから、カッコいいと思いました。

6年 土屋 透真

白浜小学校に来てくださりありがとうございました。

普段から私たちは地図のことをあまり知らなかったの、たくさんを知れてうれしかったです。

初めて知ったことは日本で一番はじめに地図を作った伊能忠敬さんの地図が今の地図とほとんど変わってないことを知りました。私は秘密の道で本当の距離と歩数があまり変わらなかったことが嬉しかったです。距離測定機は初めて使ったけどしっかり距離が測れてすごかったです。

いつも何も考えずに使っていた地図だけど、この学習をしたら国土地理院の皆さんの努力がわかったので、これからは考えながら地図を見ていきたいです。

6年 斉藤 結愛



地図教室

私は、あまり地図にはきょうみがなかったけどこの地図教室で、国土地理院の仕事や地図がどうやって作られていくのかを知れて地図や記号に興味を持ったし、少し『地図を作ってみよう』と思いました。

日本の地図を最初にした伊能ただかさんが地図を作るために使った『歩測』を実際に体験してみても自分の歩はばと距離を計算して本当に距離が測れてびっくりしました。

今は、すごく便利な事が改めてわかりました。

地図教室ではありがとうございました。

6年 朝長 心花

私は、『地図教室』をやるまで、地図のことは詳しくありませんでした。ですが、『地図教室』で、国土地理院のことを詳しく教えてくれたり、体験をさせてもらったり、クイズに答えて、短い時間で楽しんで学ぶことができました。

伊能忠敬さんが、大変なことをしてまで、1人で地図を作ったことは、とても心に残りました。

体験から、「普段あのからの歩幅なんだな」と、いうことがわかりました。

地図記号は、間違えてしまった問題があったけれど、それでまた復習ができました。

ドローンもすこかったです。

普段は地図のことを気にすることはなかったけどこの体験から、普段の生活で生かしていきたいです。私も、地図に興味を持つようになりました。

ありがとうございました。

6年 佐々木 莉奈



理 事 会

第562回理事会

- 日時 令和6年4月16日
場所 協会会議室
議題
1. 令和6年度定時総会資料について
 2. 令和6年度定時総会・創立50周年記念式典の会場について
 3. 創立50周年定時総会 及び 記念式典等の参加者について
 4. 令和6年度定時総会時の会長表彰、式典時の表彰について
 5. 令和6年度定時総会・創立50周年記念式典の運営・進行について
 6. 創立50周年定時総会 及び 記念式典等のシナリオについて
 7. 創立50周年記念誌の進捗状況等について
 8. 令和6年度災害復旧事業技術研修会の開催について
 9. 令和6年6月13日(木)「測量の日」中部地区記念行事について
 10. 令和6年度地図教室の開催について(下田市立白浜小、静岡市立井宮北小)
 11. 令和6年度 中整の協定に基づく6年度体制、技術者数の報告について

第563回理事会

- 日時 令和6年5月14日
場所 グランデイール ブケトーカイ 4階「プレリユード」
議題
1. 令和6年度定時総会資料について(総会資料・会長表彰芳名簿等)
 2. 令和6年度定時総会・創立50周年記念事業の運営について
 3. 令和6年度静岡県知事表彰候補の推薦について
 4. 令和6年度「測量の日」の実施について
 5. 令和6年度地図教室の開催について(4校と磐田市南交流センター)
 6. (一社)静岡県建設産業界団体連合会総会等について
 7. 令和6年能登半島地震による災害復旧業務の支援について

第564回理事会

- 日時 令和6年5月14日
場所 グランデイール ブケトーカイ 4階「プレリユード」
議題
1. 定時総会第5号議案の役員を選定について

第565回理事会

- 日時 令和6年6月20日
場所 協会会議室
議題
1. GNSS基準局網の整備に関する連携協定について(県未来まちづくり室同席)
 2. 創立50周年記念事業等について
 3. 令和6年度 協会役員・委員履歴表等について
 4. 令和6年度事業計画について
 5. 機関誌「静測協2025新年号」編集計画について
 6. 令和6年能登半島地震地震による穴水町公共土木施設災害復旧支援について
 7. 令和6年6月25日の全測連定時総会等について
 8. 全測連中部地区協議会役員会(7月1日)と(公社)日測協中部支部との合同業務報告会講演会等開催について

9. 狩野川放水路改築促進シンポジウム(7月18日)について
10. 国土交通省中部地方整備局県内7事務所と県内建設関連業3団体との意見交換会について
11. 熊本・鹿児島・静岡県測協による災害時応援協定に係る意見交換会について
12. (一社)静岡県測量設計業協会の書類の文書管理の適正化について

第566回理事会

- 日時 令和6年8月2日
場所 協会会議室
議題
1. 創立50周年記念誌の進捗状況について
 2. 独占禁止法遵守研修会について
 3. 県交通基盤部関係者との意見交換会について
 4. 建産連と県交通基盤部幹部との意見交換会について
 5. 社長研修会について(10月10・11日)について
 6. 熊本・鹿児島・静岡県測協による災害時応援協定に係る意見交換会について
 7. 第2回技術講習会の開催について
 8. 公益社団法人日本測量協会中部支部役員について

第567回理事会

- 日時 令和6年9月20日
場所 協会会議室
議題
1. 協会のキャッシュカードの導入について
 2. 事務局のデータ保存を目的とするクラウド利用について
 3. 11月13日開催の「新技術交流イベントin Shizuoka 2024」後援名義の使用について
 4. 令和6年度社長研修会について
 5. 熊本・鹿児島・静岡県測協による災害時応援協定に係る意見交換会について
 6. 中部地区県測協の災害時応援協定に係る意見交換会について
 7. 全測連全国会長会議について
 8. 第3回技術講習会について
 9. 愛測協創立50周年記念式典等の出席について

第568回理事会

- 日時 令和6年10月28日
場所 協会会議室
議題
1. 第1回「積算システム運営委員会」について
 2. 令和6年度上半期会長・専務理事の職務執行報告について
 3. (一社)静岡県測量設計業協会就業規則の改定について
 4. 穴水町の大雨による支援と災害見積もりについて
 5. 御殿場市都市計画審議会委員の推薦について
 6. 御前崎市との災害協定書の締結について
 7. 令和6年度「測量の日」中部地区協議会について
 8. 事業活動に使用するレンタカーとETC一体型メンバーズカードの作成
 9. 図書「建設 未来への挑戦」の購入について
 10. i-Construction中部ブロック推進本部実務者担当者会議について
 11. 技術委員会WG会議「ドローンの利活用に関する意見交換会」について
 12. 地理空間情報産学官中部地区協議会について
 13. 建設関連業における情報共有システムの運用とアンケートについて
 14. 過去の事例から学ぶ「施工計画・仮設計設計修」開催について
 15. 災害時における中部地区県測協の応援協力協定の意見交換会について

令和6年度委員会活動報告

広報・経営改善委員会

担当副会長：亀谷 寧一
委員長：竹内 豊和
委員：高橋 誠、鶴田 淳、石野 直之

広報・経営改善委員会は、「測量の日」関連行事の地図教室、測量設計業（協会）の啓発、社長研修会の開催等の活動を行っています。

令和6年度の主な活動について報告します。

1. 地図教室の開催

地図教室は、6月3日の「測量の日」関連事業の一環として、国土地理院中部地方測量部と静測協が協働し、地図と測量の重要性について理解を深め、測量に関する体験ができることを目的に実施しています。静測協では、平成22年から実施し、今年で14年目を迎えました。今年度は、下記の4校と1地域交流センターで開催しました。

【地図教室の開催校・参加人数】

- ①浜松市立庄内学園 4年生 50名
- ②静岡市立井宮北小学校 6年生 94名
- ③下田市立白浜小学校 4、6年生 18名
- ④浜松市立三ヶ日東小学校 4年生 29名
- ⑤磐田市南交流センター 3～6年生 13名

前半は、国土地理院中部地方測量部の講師の先生から測量の役割や地図の読み方・使いかたを教わりました。また、Q&A形式の地図記号クイズで、楽しみながら地図記号を学びました。

後半は、広報・経営改善委員の講師から日本地図を歩いて製作した伊能忠敬のお話と、測量体験学習を行いました。会員の測量士と共に児童は10m歩いた歩数から自分の歩幅を割り出した後、ひみつの道で自分が歩いた歩数と歩幅から距離を計算する問題に取り組みました。自分の一步を知り、自分の足を物差しにして距離を測ることができることを学びました。その後、測量機器を使った計測を行い、正確な距離と比較しました。最後に、ドローンで集合写真を撮影しました。

子供たちが測量に興味を持ち、将来この中から測量士が誕生する日を楽しみにしています。

地図教室の開催に当たり、ご協力いただきました関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

2. 令和6年度「測量の日」中部地区記念行事

4県測協の持ち回りと国土地理院中部地方測量部の隔年開催で実施しており、今年度は、令和6年6月13日に名古屋市「ウインクあいち」において、国土地理院中部地方測量部の主催による、測量技術講演会が開催されました。

3. 発注機関への啓発活動

- ①令和6年度会員名簿を1,600部発行し、各支部の役員・会員により、県内発注機関等に指名方の要望と併せて配布しました。
- ②機関誌「静測協2025新年号」を1,300冊発行し、会員の協力により県内発注機関、関係大学・高校及び各都道府県測量設計業協会、寄稿者と地図教室開催校に配布して、測量設計業をPRしました。

4. 令和6年度社長研修会

令和6年10月10日～11日に掛川グランドホテルにおいて開催しました。講師には、国土交通省中部地方整備局静岡国道事務所長 椎野 修様をお迎えし、「自然災害に向けた取組み・これからの道路政策について」と題してご講演いただきました。参加者は37名でした。

5. 県民無料測量設計相談所

協会内に常設相談所を置き、主に電話による相談に応じ、3件の相談がありました。

7. ホームページの管理

協会のホームページを通して積極的に情報開示し、最新の情報の掲載に努めるとともに、図書館を開設し、会員職員の技術力、論文作成能力の向上と継承に取り組んでいます。なお、ご意見・ご要望がございましたら、協会事務局にメール等でご連絡くださいますようお願い申し上げます。

令和6年度委員会活動報告

企画委員会

担当副会長：亀谷 寧一
委員長：勝間田賢一
委員：大井 寿彦（東部支部）、塚本 好明（中部支部）
大場 保弘（西部支部）

令和6年度は中部支部の委員が新任、西部支部は代表者変更に伴う後任委員を迎えてのスタートとなりました。新年度早々、静岡県交通基盤部との意見交換会開催に向け、静測協会企業より意見・要望・提案等を集めております。その後、事務局と連携して意見・要望・提案の集約を進め、交通基盤部との意見交換会を開催しました。御意見を頂いた静測協会企業の皆様には大変感謝しております。

活動内容

1. 静岡県交通基盤部との意見交換会に向け、静測協会から募ったテーマ（意見・要望）を依頼、令和6年5月27日、6月25日に委員会を開催し、意見・要望内容の精査と取りまとめをおこないました。
2. 委員会で取りまとめたテーマ（意見・要望）を静岡県交通基盤部技術調査課へ提出し、令和6年9月6日に意見交換会が開催されました。

出席者22名

（県交通基盤部13名、静測協9名）

(1) 測量

- ・用地測量のオンライン電子納品について
- ・3次元データ活用業務について
- ・現場での伐採作業について

(2) 設計

- ・電算帳票について
- ・基本設計の重要性について

(3) 共通

- ・業務の平準化、適正工期の設定及び工期変更・繰越について
- ・再委託の改善方策について
- ・業務全般について

- ・県庁協議について
 - ・情報共有システムについて
 - ・入札について（同種業務の実績期間の延長）について
- (4) 契約
- ・TECRISの「メールでの登録内容確認」について
 - ・電子契約と各種交付・提出書類について
 - ・災害対応の評価点について
- (5) 災害
- ・災害による契約変更時の手続き簡素化について
 - ・災害復旧業務の委託費積算について

本年度は意見交換会の議題として上記のテーマを取り上げました。

近年、静測協会から挙げられる意見・要望・提案についてはDX化に関連したものが多くなってきているように感じます。DX化の黎明期から数年が過ぎ、現在は過渡期へと移行しているものと考えられますが、今後も測量設計業の周辺状況は変化を続け、成熟期へと向かうでしょう。測量・設計の技術的なものだけでなく、入札や契約に至るまで我々業界を取り巻く様々な事象においてDX化が推奨される時代になってまいりました。我々静測協会員はこうした変化に対応していく適応力が強く求められるでしょう。

意見交換会の議事録並びに回答は既に会員企業各社の下に届いているかと思いますが、ぜひ熟読頂いて今後の自社の業務遂行と業界の発展に役立てて頂きたいと思っております。

技術委員会

担当副会長：齋 秀之
委員長：荒山 晃
委員：鈴木 富博、見崎 俊弘、深民 泰弘

本委員会の本年の主な活動について下記のとおり報告致します。

1. 測量・設計技術の講師派遣事業

国・地方自治体が行う土木技術職員の各研修会への講師派遣を行いました。土木設計・測量学等の講義を担当し、グループ単位での最新機器に於ける基準点測量・応用測量等の測量実習を行い近年の測量設計業務に於ける基本作業手順について、実務体験をして頂きました。

日時 令和6年5月15日(木)～16日(金) 2日間

静岡県土木技術職員研修(測量概論・測量演習)

会場 静岡県建設技術監理センター

・測量座学の講義 ・測量演習

2. 地理空間情報産学官中部地区連携協議会への参画

地理空間情報の学術・産業・技術・研究・開発・発展に貢献するため、土木・測量設計を担う各協会団体やICT技術を研究する大学、更に経済成長を推進する国・県・市町村が、産学官の連携体制強化を図り、防災対策、地理空間情報に関する意見交換及び情報提供・利活用について議事が開催されています。私たち技術委員会も協議会委員として参加し、生産性革命プロジェクトである『インフラの整備・管理・機能や産業の高度化』の一環であるICT推進・データ活用情報を共有しながら将来の技術革新を目的とした提案を発信して参ります。

3. 静岡県ふじのくにi-Construction推進支援協議会への参画

協議会には、委員として参加しており、今後とも各要請事項に対応して参ります。

国土交通省が推奨する生産性革命プロジェクトの実現に向けて、静岡県が主催する国及び地方公共団体と各建設関連協議会が、ICT新技術の導入や推進、更には、現場の生産性向上を目的とした議題を検討・研究しています。地域の将来を見据えた産学官連携を目的に経済発展に向けた精度管理の技術提案や積算基準を重点に意見交換を行って参ります。

第1回 令和6年9月25日(水) 15:00～16:30 ハイブリット開催

3名は現地2名とオンライン1名で出席した。

能登半島支援でのICT活用を交通基盤部福田達樹様、復旧支援に携わった県内コンサル(株)東日、(株)フジャマの発表が行われた。

その他、最近の取組(情報提供)が交通基盤部未来まちづくり室より報告があった。

4. 静岡市CALS/EC推進協議会への参画

静岡市CALS/EC推進協議会会長は静岡市建設局土木部長、副会長は静岡市建設局道路部長、(一社)静岡建設業協会会長、(一社)清水建設業協会会長である。当協会は委員として会長、専門部会委員として企画委員が参画している。

5. 静岡大学土木情報学研究所との協議会への参画

学内に令和2年10月1日設立された研究所との交流及び情報共有を図っています。

プロジェクト研究所「土木情報学研究所」は、第1期3年を終え、第2期も引続き連携強化・社会実装・人材育成も加える事で、協会も引続き支援して参ります。

6. 静岡理工科大学工学部土木工学科の「静岡土木技術研究会」への参画

令和4年4月開講の産学官における共通課題の研究会として、牧田西部支部長が定期的な会議に参加しています。

7. 技術委員会WG(ワーキンググループ)への協力支援

国土交通省BIM/CIM推進の対応によりプロジェクトチームを立ち上げましたが、今後も国のDX推進や県の三次元点群データの活用が強く求められていることから、測量設計の技術情報・提案について常時対応が出来るように技術委員長を含め10名のプロジェクトチーム(東中西部の各3名)に協力して頂きながら協会の技術革新に貢献して参ります。

第1回会議 日時 令和6年4月10日(水) 14:00～16:30

会場 静岡県産業経済会館3階第2会議室、県交通基盤部未来まちづくり室と

・県未来まちづくり室新体制紹介

・取得済み3次元計測データを用いた路線測量・現地測量等マニュアル(案)0.9版、その他民間電子基準点について

第2回会議 日時 令和6年7月10日(水) 15:00～17:00
会場 県庁別館8階第1会議室A、県交通基盤部未来まちづくり室と

・取得済み3次元計測データを用いた路線測量・現地測量等マニュアル(案)及び適用範囲・歩掛り、その他電子基準点、能登半島支援について

8. 技術講習会の開催について

近年、リモート型や残業時間等の働き方改革の転換と抜本的な生産性や安全性向上を図るため、5G等基幹テクノロジーを活用したインフラ分野のDX*1(デジタル・トランスフォーメーション)を推進しています。インフラの整備・管理・機能や産業の高度化として、インフラのデジタル化を全国的に拡大するため、3Dデータ等を活用した新技術の開発や導入促進、これらを活用する人材育成を実施している状況にあります。

測量分野では、地上レーザースキャナーやUAV搭載型レーザースキャナーを用いた3D測量業務が主流になっていく中、設計分野においても3D化へのBIM/CIM*2も「全ての詳細設計での原則適用」として国土交通省の方針が進められています。中小企業への期待される技術進歩がめまぐるしく変化し、更に全国で集められた3Dデータのオープンデータ*3を目標とし、令和7年までに「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」等の建設関連業の生産性向上を目指す社会資本整備重点計画が閣議決定されています。静岡県も既にポイントクラウドデータベースである『VIRTUAL SHIZUOKA(バーチャル しずおか)』を立上げ運用し、次世代の3Dモデルにおける活用方法や効果、電子基準点・電子納品等の課題を整理し、最適な環境での要領基準に反映する政策が検討されています。毎年、進化する災害対策や防災・減災を推進する国土強靱化計画(内閣官房推進)の政策についても当協会では、最新の技術情報を取り入れながら講習会を開催して参ります。

*1 進化したデジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革すること。

*2 BIM/CIM(Building/Construction Information Modeling/Management)とは、調査設計段階から3次元モデルを導入し、施工・維持管理の各段階での3次元モデルに連携・発展させることで、一連の建設生産システムの業務効率化や高度化を目指した取り組みです。

*3 インターネットなどを通じて誰でも自由に入手し、利用・再配布できるデータの総称。

令和6年度 第1回技術講習会プログラム

『実務者向けセミナー(ビデオ講習会)～地域に根ざしたUAV計測の利活用事例～』

開催日: 令和6年9月27日(金) 9:30～16:30

会場: 静岡労政会館 6階大ホール(参加者47名)

共催: (公社)日本測量協会

講師: 日測協「実務者向けセミナー講座」より

①開会・UAV利活用セミナー等から見てきた動向

②UAV計測技術の関連動向

③UAV計測を地域で活用するために

④農村整備におけるUAV利活用事例: 農業用施設の管理及び災害対応

⑤地域特性に合わせたUAVを主体とした複合的測量の利活用事例

⑥モニタリングから災害対応での利活用まで

⑦UAV利用技術をより深めるために・開会

令和6年度 第2回技術講習会プログラム

『測量のためのドローン操縦研修会(基礎講座)』

開催日: 令和6年10月21日(月) 13:20～16:40

会場: 静岡県総合研修所もくせい会館 富士大ホール、体育館(参加者9名)

講師: (株)豊富(賛助会員)松浦真悟

①ドローンによる測量技術の基礎知識について(講義)

②ドローンによる測量の操縦方法について(実習)

令和6年度委員会活動報告

調査委員会

担当副会長：齋 秀之
委員長：豊田 哲也
委員：土屋 孝、伊藤 孝浩、石黒 一彰

調査委員会の活動に関して下記の通り報告します。

調査委員会は、主として土木積算S・E事業に関わる業務を担当しています。

「土木積算S・E (SMILES・ENGINEER)」とは、当協会が静岡県交通基盤部建設経済局技術調査課の協力を得て開催する講習会の受講並びに修了試験を受けた後に、静岡県交通基盤部建設技術調査課長から修了試験の合格が承認された技術者に対して、土木積算S・E証を交付する制度になります。

本制度は平成4年7月1日より発足し、以来約30年経過しておりますが、毎年定期講習会、前期講習会、後期講習会並びに修了試験が行なわれています。

土木積算S・E資格者には3年に一度の更新講習会の受講が義務付けられています。令和6年10月現在の技術者数は632名が登録されています。

当協会は静岡県建設事務総合システム（設計積算システム）の利用許諾を前提に市町と「土木積算S・E選定要領に関する覚書」を締結しています。これにより新土木積算システム（SMILES・ASP）を利用して、電算帳票作業業務を「土木積算S・E資格者」が在職する測量設計業者に委託することができます。

・令和6年度静岡県土木積算定期講習会

日時：令和6年7月5日 13：40～16：30

会場：静岡県労政会館6F 大ホール

受講者数：223名

・令和6年度静岡県土木積算初級(前期)講習会

日時：令和6年9月18日 10：20～15：30

会場：静岡県労政会館6F 大ホール

受講者数：58名

・令和6年度静岡県土木積算初級(後期)講習会及び修了試験

日時：令和6年10月1日 10：20～15：30

会場：静岡県労政会館6F 大ホール

受講者数：58名

・「土木積算S・E選定要領に関する覚書」を締結している市町（覚書締結順）

御前崎市 袋井市 浜松市 掛川市 森町
菊川市 富士宮市 藤枝市 焼津市 松崎町
島田市 伊豆の国市 富士市 川根本町

（以上14市町）

災害対策委員会

担当副会長：齋 秀之
委員長：二村 繁靖
委員：上杉 和博、奥平慎太郎、影山 友貴

災害対策委員会の主な活動と経過等について下記のとおり報告します。

1. 災害協定締結について

「災害時における測量設計等業務委託に関する協定：災害協定」は新たに御前崎市と令和6年10月17日付けにて協定書を締結しました。

この締結により静岡県内35市町全てにおいて災害協定を締結したことになります。また県交通基盤部・県経済産業部・県道路公社・県教育委員会・県企業局・国交省中部地方整備局（全測連中部地区協議会で締結）とも締結が成されています。

本年度は、元日に能登半島地震が発生して建物が倒壊し多くの犠牲者をだしました。また、9月には奥能登が豪雨により甚大な被害に見舞われました。静岡県でも近年豪雨による災害が頻繁に発生している状況であり、災害協定により被災時に迅速に対応することができ、災害復旧を効率的にかつ安全に実施することができると考えております。また、当協会では大規模地震や激甚災害を想定し常日頃より、ハード・ソフト一体となった取組強化に努め、行政機関や会員会社との連携を密にして対応する必要があります。

静岡県では他県に先駆け県内全域を3次元データ化した「VIRTUAL SHIZUOKA」が整備されています。この3次元点群データを活用して大規模災害時等、人が現地に入立困難な状況でもUAV等により観測し、道路・法面の崩壊や流出土砂の把握を行うことが可能となりました。今後も最先端の測量・設計技術を習得し災害復旧業務に対応する事が望まれます。

2. 他県・遠隔地との応援協力協定の取組み

近隣県として全測連中部地区協議会（中地

協）である愛知県・岐阜県両測協とH23.3に、また遠隔地としてH26.7熊本県測量設計コンサル協・H28.8鹿児島県測協と、さらにR3.12には関東圏で隣接県である山梨県・神奈川県両測協と「災害時における応援協力に関する協定：災害時相互応援協定」が締結されています。

また10月24日には西部地区において、鹿児島県・熊本県と合同で3県の交流意見交換会が行われました。（熊本県4名、鹿児島県4名、静岡県11名）

令和6年元日に発生した能登半島地震の被災により、石川県測量設計協会より全国測量設計協会連合会に災害復旧業務の支援要請がありました。本協会は支援先として静岡県職員が技術派遣されている穴水町と令和6年6月3日「災害時における応急調査業務に関する協定」を締結して、本協会から11社が支援協力をを行い対応しております。

3. 災害復旧事業技術研修会の開催

令和6年7月3日午後、Zoomによるオンライン研修を、静岡県交通基盤部土木防災課・道路保全課の協力を受けて開催しました。また、協会からは（株）フジヤマが3次元点群データの活用について報告を行いました。（参加者223名、接続数68箇所、レポート提出者103名）

4. 災害応援協定締結事業者研修会・連絡会等の参加

令和6年7月3日静岡県危機管理部主催の災害研修会、9月17日富士宮市・11月25日掛川市の危機管理局主催の災害協定者連絡会に参加しました。本年3月には静岡県企業局との情報伝達訓練が予定されています。

支部情報

(自令和6年4月1日
至令和6年10月31日)

東部支部

6月28日 13:30
沼津土木事務所長3役挨拶事業面談
齋支部長・二村理事(副支部長)・勝間田理事
(会計)
・支部活動のお願い
※活動項目・協会名簿渡し

7月8日 13:30~17:00 プラザヴェルデ
東部支部第1回支部役員会
支部長・理事(副支部長)・理事(会計)・
監事・各委員長・副委員長
議題: 1. 東部支部活動と役割分担
2. 沼津土木事務所意見交換会
3. 奥野ダム教室
4. 土木の日
5. その他(災害対応協会お願い)

7月31日 10:00~13:30
熱海土木事務所主催「ダム教室」測量体験
奥野ダム(約400名来場)
出席者(予定): 二村理事・勝間田理事・鈴木
委員長・他自由参加
協力会社: RBコンサルタント・中野測量設計・
ウインディーネットワーク

10月3日 13:00 プラザヴェルデ
第2回東部支部役員会
議題: 1. 沼津土木事務所意見交換会
2. 支部全体協議会
3. 土木の日
4. その他

10月25日(金) 10:00~11:30
沼津土木事務所意見交換会
出席者: 沼津土木事務所所長・幹部職員
東部支部長・理事・各委員長
議題: 1. 協会からの要望一覧表提出
2. 協会からの意見交換テーマ
3. 土木事務所からの意見交換テーマ

中部支部

4月25日 中部支部総会
中島屋グランドホテル
中部支部18社
・令和5年度度事業報告(中部支部
各分会)
・令和5年度収支決算報告及び監査
報告
・令和6年度事業計画(案)承認
・令和6年度予算(案)承認
・中部支部総会議案説明
・中部支部事業分担

5月15~16日 静岡県交通基盤部令和6年度採用1
年目研修(県市町職員土木技術者1
年目研修)
場所: 静岡県建設技術監理センター
講師: 中部支部5社により2日間派遣
15日 座学 参加者 60名
16日 県職員・市町職員 測量実習

6月18日 「地図教室」静岡市立井宮北小学校
講師等 中部支部5社、6年生 94名

7月18日 中部支部定例会
場所: 中島屋グランドホテル
中部支部15社
・委員会メンバー再編成について
・委員会の事業内容 他

10月25日 静岡県土木関係者と静測協中部支部
との意見交換会
場所: クーポール会館 20名
・協会からの要望・質疑
・協会活動報告
・静岡県からの要望 他

西部支部

- 4月19日 第42回通常総会開催
於：呉竹荘 15：00～ 出席者13名
1. 令和5年度事業報告及び収支決算について
2. 令和5年度研修会特別会計収支決算について
3. 令和6年度事業計画案及び収支予算案について
4. 令和6年度研修会特別会計事業計画案及び収支予算案について
5. 令和6年度役員改選
- 5月23日 創立50周年記念誌部会第5回開催
於 不二総合コンサルタント(株)
5階会議室 11名参加
- 5月28日 第1回全員協議会開催
於：不二総合コンサルタント(株)
5階会議室 13：00～
出席者13名
1. 理事会報告
2. 各委員会報告
3. 県西部地区土木事務所・企業局幹部職員との意見交換会について
4. 中田島砂丘絶滅危惧種(カワラハンミョウ)の保護活動について
5. その他今年度の事業計画について
- 6月7・8日 研修旅行開催
越後湯沢方面 西部支部13社参加
- 6月10日 浜松どぼくらぶ会議
浜松土木事務所 PM1：30～
牧田・竹内・田内参加
- 6月12日 地図教室会開催
於：庄内学園 13：30～
4年生 50名参加
講師等 西部支部4社(株)フジヤマ・(株)技研測量・(株)日進・不二総合(株)
- 7月2日 地図教室会開催
於：三ヶ日東小学校 13：30～
4年生 29名参加
講師等 西部支部2社
(竹内測量設計(株)・吉田測量設計(株))
- 7月5日 建設関連産業キャリア講座
(西都台小学校) PM1：15～
不二総合コンサルタント(株)・
吉田測量設計(株)参加
- 7月11日 建設関連産業キャリア講座
(神久呂小学校) PM1：30～
竹内測量設計(株)・(株)ケープロログ
参加
- 7月12日 浜工どぼくらぶ講座
於：静岡県立浜松工業高校 土木科
1年生参加
実習 (株)日進、不二総合コンサル
タント(株)
座談会 (株)フジヤマ、(株)中部総合コ
ンサルタント
- 8月1日 地図教室会開催
於：磐田市南交流センター
13：30～ 4年生 20名参加
講師等 静測協2社
(吉田測量設計(株)・(株)伸東測量)
- 8月9日 第2回全員協議会開催
於：不二総合コンサルタント(株)
5階会議室 11：00～ 出席者13名
1. 理事会報告
2. 各委員会報告
3. 今年度事業について
西部支部納涼会開催
ホテルクラウンパレス PM5：30～
- 9月17日 第3回全員協議会開催
於：不二総合コンサルタント(株)
5階会議室 11：00～ 出席者13名
1. 理事会報告
2. 各委員会報告
3. 社長研修会について
4. 静岡県西部地区土木事務所およ
び企業局との意見交換会につい
て
5. その他
- 9月18日 静岡県西部地区土木事務所・企業局
幹部職員との意見交換会
於：浜松土木事務所9F会議室
15：30～
静測協会員12名、
土木事務所職員14名参加
懇親会 濱しょう 18：00～20：00
- 10月2日 中田島砂丘絶滅危惧種(カワラハン
ミョウ)の保護活動実施
於：浜松市中田島砂丘
静測協会員他29名参加
1. 外来生物の除去作業を浜松土木
事務所職員と合同にて実施

『田子の浦港 浚渫土砂「脱水処理土」の建設材料への利用検討』

株式会社 東日 地盤防災部 地質応用グループ

池谷卓美 川里なえ

1. はじめに

掘込港湾である田子の浦港（静岡県富士市）では、沼川や潤井川等から土砂が流入・堆積するため毎年浚渫を行っており、静岡県は浚渫土砂の有効利用について多面的に検討を行っている。

浚渫土砂を分級脱水処理することによって生成する細粒分（以下「脱水処理土」）の処理および活用方法検討の一つとして、本稿では「脱水処理土」に富士山の大沢崩れで発生する土砂（以下「富士砂防砂礫」）を混合することで建設材料としての利用適否の検討について報告する。

2. 調査の流れと母材試料、建設材料の規格

初めに母材となる「脱水処理土」と「富士砂防砂礫」の試料を採取し、各性状を把握するための室内土質試験を行った。母材試料の試験結果を踏まえて試料の混合割合を決め、混合試料6パターンの室内土質試験を行った。

試験結果をもとに建設材料としての適合判定を行った後、混合材料を実際に施工利用する際の留意点を整理し、推奨する混合割合を提案した。

2-1. 母材試料について

1) 「脱水処理土」

田子の浦港内で浚渫した土砂は、解泥機や分級機を用いて砂利・砂・細粒分に分別されている。この内、細粒分を高圧脱水処理したものを「脱水処理土」と呼ぶ。

本調査で使用した試料は図-1に示す位置より採取した沼川由来の「脱水処理土（沼川）」（図-2）であり、黒褐色の砂混じり粘性土である。

2) 「富士砂防砂礫」



図-1 「脱水処理土」試料採取位置



図-2 採取試料「脱水処理土（沼川）」

富士山西側斜面に位置する大沢崩れは、山頂直下から標高2,200m付近にわたる大規模な侵食谷である。標高900~600m付近には大規模な砂防施設 大沢川遊砂地が設置され、大沢崩れにより流出した土砂はここに堆積している。

国土交通省 富士砂防事務所ではこの土砂を継続的に除石しており、除石した土砂はふるい分けや破碎等の粒径処理をして、土地改良・道路建設盛土材、海岸の養浜材などに利用されている。



出典：国土交通省 中部地方整備局 富士砂防事務所 令和4年度 事業概要 p.13・14に加筆

図-3 「富士砂防砂礫」試料採取位置



図-4 採取試料「富士砂防砂礫」

本調査では、大沢川遊砂地 第8床固工(図-3)より採取した砂礫を利用した。採取した「富士砂防砂礫」(図-4)は径100mm以下に調整された細粒分混じり砂礫である。ただし、CBR試験の許容最大礫径である37.5mmより大きい礫は取り除いた。

2-2. 利用を検討する建設材料の規格

利用を検討する規格は、『建設発生土利用技術マニュアル第4版』の「第2種建設発生土」と、静岡県盛土材料取扱基準(R4.7)の

表-1 土質区分基準 抜粋

区分	細区分	コーン指数qc (kN/m ²)	土質材料の工学的分類	
			大分類	中分類 土質(記号)
第2種 建設発生土 (砂質土、礫質土及びこれらに準ずるもの)	第2a種	800以上	礫質土	細粒分まじり礫[G]
	第2b種		砂質土	細粒分まじり砂[S]
	第2種 改良土		人工材料	改良土[I]
第3種 建設発生土 (通常の施工性が確保される粘性土及びこれらに準ずるもの)	第3a種	400以上	砂質土	細粒分まじり砂[S]
	第3b種		粘性土	シルト[M]、粘土[C]
			火山灰質粘性土	火山灰質粘性土[V]
第3種 改良土	人工材料	改良土[I]		

出典：『建設発生土利用技術マニュアル第4版』2013年12月(独)土木研究所)p.26 表3-1より抜粋

「路体材」とした。

1) 「第2種建設発生土」

『建設発生土利用技術マニュアル第4版』による「第2種建設発生土」は、表-1に示すようにコーン指数が800kN/m²以上の礫質土または砂質土で、土質改良をせずに埋め戻し材や道路盛土材としての利用可能な材料である。

2) 「県路体材」

静岡県盛土材料取扱基準(R4.7)における「路体材」(以下「県路体材」)の規格は以下の4つである。

- ①4,750 μ mフルイを通る試料の中に占める75 μ mフルイパス分が50%以下
- ②塑性指数IPが30以下
- ③変状土CBR値5以上
- ④最大粒径300mm

④最大粒径については、今回利用した「富士砂防砂礫」が径100mm以下に粒度調整されたものであるため、適合しているとみなした。

なお令和5年12月に改正された静岡県盛土材料取扱基準では、③の変状土CBR値に関する規格は廃止されている。

2-3. 室内土質試験の項目

「脱水処理土」と「富士砂防砂礫」を混合した試料が「第2種建設発生土」及び「県路体材」の基準・規格に適合するか否かを判断するため、表-2に示した室内土質試験を実施した。

また母材材料については、試料の重量と体積を換算するため、締固めていない状態の土の湿潤密度試験も実施した。

表-2 室内土質試験項目

土質試験項目名	目的・利用	規格
土粒子の密度試験	土の基本的性質の把握	JIS A 1202
土の含水比試験	土の基本的性質の把握	JIS A 1203
土の粒度試験 (沈降分析、ふるい分析)	建設材料としての適否判定	JIS A 1204
土の液性限界・塑性限界試験	建設材料としての適否判定	JIS A 1205
締固めた土のコーン指数試験	「第2種発生土」としての適否判定	JIS A 1228
締固めた土のCBR試験	「県路体材」としての適否判定 (R4.7時点)	JIS A 1211
土の湿潤密度試験	土の重量比・体積比の換算 (締固めていない状態、母材試料のみ)	JIS A 1225

3. 調査結果

3-1. 母材の室内土質試験結果

室内土質試験の結果、「脱水処理土」は粘性土分が約50~90%の砂質有機質粘土~砂混じり有機質粘土で、概ね一般的な沖積粘性土と近い物理的性質を持っていることが分かった。コーン指数は800kN/m²以上が見込まれる結果となったが、変状土CBR値は1.3~3.2%と非常に低く、強度が出にくい材料であるといえる。

「富士砂防砂礫」は礫分が約50~70%で細粒分~粗礫に至る幅広い粒径を含み、コーン指数は5,000kN/m²以上、変状土CBR値は160%であることから、良質な材料といえる。

ただし、粒度組成は不均質で、大沢川遊砂地の堆積場所や採取時期等によって粒度組成がばらつくことが予想される。

3-2. 試料の混合割合の決定

「第2種建設発生土」及び「県路体材」は共に粒度組成の規格が設けられているため、試験を行う試料の混合割合は、母材試料の粒度試験結果から混合時の粒度組成を予想し、表-3に示した6パターンとした。

表-3 混合割合のパターン(重量比)

	脱水処理土 (沼川)	富士砂防砂礫
6 パ タ ー ン	1	3
	1	2
	2	3
	1	1
	3	2
	2	1

3-3. 混合試料の室内土質試験結果

6パターンの混合試料の試験結果を表-4にまとめた。母材試料の土質試験結果では砂・礫分の含有率が高い「富士砂防砂礫」のコーン指数とCBR値が大きかったが、混合試料の試験結果においても砂礫分の割合が高い混合試料ほどコーン指数及びCBR値が大きい結果となった。

3-4. 建設材料としての利用判定

混合試料の試験結果より、建設材料としての適否判定を行った。その結果を表-5にまとめた。

1) 「第2種建設発生土」の判定

試験結果より、コーン指数は母材及び全ての

混合試料で、適合となる800kN/m²以上となった。

土質が礫質土または砂質土となるのは、「脱水処理土(沼川)」：「富士砂防砂礫」=3:2より砂礫の混合割合が多い試料であり、「脱水処理土」：「富士砂防砂礫」=3:2と2:1の間に適否の境界があるといえる。

2) 「県路体材」の判定

規格①については、「脱水処理土(沼川)」：「富士砂防砂礫」=1:1より「富士砂防砂礫」の混合割合が多い試料で適合となった。

規格②については、3:2より「富士砂防砂礫」の混合割合が多い試料で適合となった。

規格③については、1:1より「富士砂防砂礫」の混合割合が多い試料で適合となった。

以上より、「県路体材」としての適否境界は「脱水処理土」：「富士砂防砂礫」=1:1と3:2の間であるといえる。

4. 建設材料として利用する際の留意点

以上の結果を踏まえ、混合試料を建設材料として実際に利用する際の留意点を整理し、推奨する混合割合を提案する。

4-1. 母材試料の粒度組成のばらつき

母材となる「脱水処理土」と「富士砂防砂礫」の粒度組成は、同じ位置で採取した試料であってもばらつきがあるが、「第2種建設発生土」と「県路体材」の基準は共に粒度組成の規格が設けられているため、混合試料の粒度組成を把握することが重要となる。

「脱水処理土」は、由来となる河川によって細粒分含有率が異なるため、施工利用する試料は本調査時よりも細粒分含有率が高い材料となることも想定される。

「富士砂防砂礫」の礫分はおよそ50~70%の幅があり、施工利用時に用いる試料は大径礫の割合が今回より多くなることが想定される。

4-2. 重量比から体積比への換算

施工時には体積比によって混合することも想定されるため、母材試料の締固めていない試料の密度試験を行い、混合割合を重量比から体積比に換算した(図-5)。体積は重量を密度で除すことで換算でき、重量比を体積比に換算すると「富士砂防砂礫」の割合はおよそ1/2となる。

表-4 土質試験結果

試料名・混合割合		母材		脱水処理土(沼川)：富士砂防砂礫						母材
		富士砂防砂礫	1:3	1:2	2:3	1:1	3:2	2:1	脱水処理土(沼川)	
土質試験	自然含水比 w_n %	4.1	15.2	19.7	23.2	29.0	35.3	40.5	69.9	
	礫 分 (2~75mm) %	53.3	42.5	37.0	37.8	30.4	28.0	22.7	0.0	
	砂 分 (0.075~2mm) %	40.2	39.1	37.9	33.0	32.3	27.6	25.5	9.4	
	細粒分 (0.075mm未満) %	6.5	18.4	25.1	29.2	37.3	44.4	51.8	90.6	
	4,750 μ m以下に占める75 μ m(細礫分)	10.9	27.2	34.2	41.0	48.1	56.6	62.4	90.6	
	塑性指数 I_p	NP	16.1	21.4	21.2	28.3	25.9	32.9	37.0	
	地盤材料の分類名	細粒分混じり砂質礫	細粒分質砂質礫	細粒分質礫質砂	細粒分質砂質礫	細粒分質礫質砂	細粒分質砂質礫	砂礫質有機質粘土(高粘性限界)	砂混じり有機質粘土(高粘性限界)	
	分類記号	(GS-F)	(GFS)	(SFG)	(GFS)	(SFG)	(GFS)	(OHSG)	(OH-S)	
	平均 CBR %	160.0	48.1	29.8	12.7	7.5	2.9	2.8	1.3	
	コーン指数 q_c kN/m ²	5,154	4,701	3,494	2,244	1,691	1,179	1,130	840	
建設発生土利用技術マニュアルによる土質区分	第2a種	第2a種	第2b種	第2a種	第2b種	第2a種	第3b種	第4b種		

表-5 建設材料としての利用判定

重量比		建設発生土利用技術マニュアル「第2種建設発生土」			静岡県盛土取扱基準(R4.7)「路体材」						
脱水処理土(沼川)	富士砂防砂礫	工学的分類名	コーン指数(kN/m ²)	区分	規格①		規格②		規格③		路体材適否
					(%)	判定	試験値	判定	試験値	判定	
富士砂防砂礫		細粒分混じり砂質礫	5,154	第2a種	10.9	○	NP(0.0)	○	160.0	○	○
1	3	細粒分質砂質礫	4,701	第2a種	27.2	○	16.1	○	48.1	○	○
1	2	細粒分質礫質砂	3,494	第2b種	34.2	○	21.4	○	29.8	○	○
2	3	細粒分質砂質礫	2,244	第2a種	41.0	○	21.2	○	12.7	○	○
1	1	細粒分質礫質砂	1,691	第2b種	48.1	○	28.3	○	7.5	○	○
3	2	細粒分質砂質礫	1,179	第2a種	56.6	×	25.9	○	2.9	×	×
2	1	砂礫質有機質粘性土	1,130	第3b種	62.4	×	32.9	×	2.8	×	×
脱水処理土(沼川)		砂混じり有機質粘性土	840	第4b種	90.6	×	37.0	×	1.3	×	×



図-5 重量比から体積比への換算値

以下に推奨する混合割合と留意点をまとめた。推奨する割合は表-5にピンク色で示した。

1) 「第2種建設発生土」

母材試料「脱水処理土」のコーン指数が基準値800kN/m²を超えているので、適合となるには混合試料が砂質土か礫質土であること、即ち細粒分が50%以下である必要がある。

「脱水処理土」が細粒分100%である場合を考え、安全性を考慮した混合割合は、「脱水処理土」：「富士砂防砂礫」=1：1（体積比1：0.6）程度が適切と提案した。

2) 「県 路体材」

規格②及び規格③の値は、概ね礫分が多いほど強度特性が高い値をとると予想される。

規格①の値は、細礫以下の粒度組成に着目する必要がある、母材試料は粒径にばらつきがあるため±20%程度この数値が変動すると予想される。

以上より安全性を考慮した混合割合は、「脱水処理土」：「富士砂防砂礫」=1：3（体積比1：1.6）程度が適切と提案した。

5. 最後に（今後の展開）

本調査の結果をもとに、田子の浦港管理事務所では試験施工及び重機により混合した試料の土質試験による検証が行われており、実用化が進められている。令和5年度には、富士市や県土木事務所等が発注した公共工事 約10件で混合材料が利用され、およそ1万7千m³の脱水処理土が利用された。

また河川の築堤材料としての適否を判断する調査も新たに行われており、「第2種建設発生土」、「県 路体材」だけでなく、その他の用途にも実用化されていくことが期待される。

『土石流発生箇所における砂防堰堤調査・計画・設計事例』

株式会社フジヤマ 静岡支店 事業部

松田 有由 大塚 啓一 佐野 守
中戸川 達矢 大塚 良子

1. はじめに

令和4年9月23日～24日にかけて襲来した台風15号により、静岡県内では、167件の土砂災害が発生（土石流等54件、地すべり2件、がけ崩れ111件）し、死者1名、負傷者3名、住宅の全壊6戸、半壊22戸、一部損壊67戸の甚大な被害をもたらした。

藤枝市内の旭ヶ丘西沢では、断続的に降り続いた大雨の影響で、9月23日22時45分頃に土石流が発生し、住宅の一部損壊、床上浸水3戸の被害が確認された。被災後の溪流内には、斜面崩壊によって供給された大量の土砂や流木が堆積していた。これらの土砂等が降雨に伴い再流出し、下流域に被害を及ぼす危険性があったことから、災害関連緊急砂防事業として（以下「災関事業」）緊急的に土石流対策を実施することとなった。

本稿では、土石流対策として計画した砂防堰堤の調査・計画・設計における課題と対応策を紹介する。

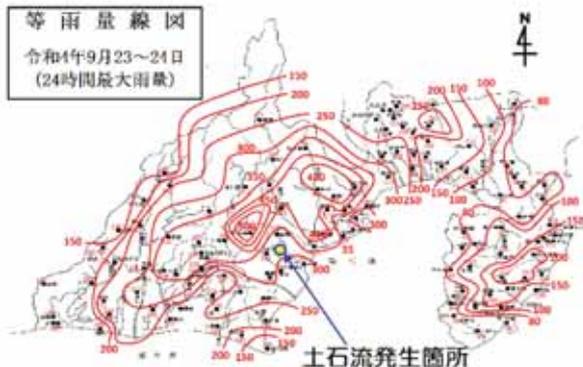


図-1 等雨量線 静岡県砂防課提供



図-2 土石流発生状況 (全景)

2. 課題・問題点

本溪流の周辺は、古第三系瀬戸川層群の砂岩層で、起伏量100～200mの山麓斜面となっており、沢地形をなしている。流域面積は0.02km²を有し、平成28年に土砂災害特別警戒区域等（土石流）に指定されている。下流域には、人家10戸及び市道が立地している。

災関事業として、砂防堰堤の設計を進めるにあたり、以下の3つの課題があった。

1) 短期間での調査・計画・設計

通常の砂防事業では、調査・計画・設計（予備・詳細設計）に、2年～3年の期間をかけて実施することが一般的であるが、本事業は災関事業であり、下流人家の早期保全が必要であったため、約1年という短期間で、精度の高い調査・計画・設計を実施することが課題となった。

2) 迅速かつ効果的な応急対策の実施

溪流内に残存する不安定な土砂や流木が再流出した際には、下流域に甚大な被害をもたらす。このため、堰堤の施工が完了するまでの間、人家の保全や地質・測量調査時の作業員の安全確保、さらには堰堤施工時の作業員の安全確保を目的に、迅速かつ効果的な応急対策の実施が緊急の課題であった（令和5年12月末までに施工完了目標）。

3) 計画地上流の斜面変状箇所への影響の最小化

堰堤の位置は、①谷出口や狭小部で上流側に流出した土砂を捕捉できる十分なスペースがあるか、②経済的な構造か、③十分な施工性が確保できるかを総合的に判断して決定することが基本となる。このことを踏まえ、堰堤の最適地を決定したが、計画地上流の左岸側には馬蹄形地形を呈する斜面変状箇所が存在することが判明した。堰堤の施工に伴い、斜面変状箇所ですらなる崩壊が発生しないよう、斜面変状箇所への影響を最小限にする構造形式を検討することが課題となった。

3. 対応策・工夫・改善点と適用結果

1) 短期間での調査・計画・設計への対応

（3次元点群データやUAV撮影画像の活用による効率化）

① 災害発生要因調査に土砂発生予測図を活用

従来の災害発生要因の推定は、経験のある熟練技術者が流域全体の状況を調査し、判断する手法が一般的であるが、現地状況をすべて調査するためには多大な労力と時間を要する。そのため、本業務では、流域の状況調査等のために、静岡県オープンデータやUAVによる3次元点群データから土砂災害予測基本図を作成し、被災前後の地形を比較する手法を用いた（図-3）。

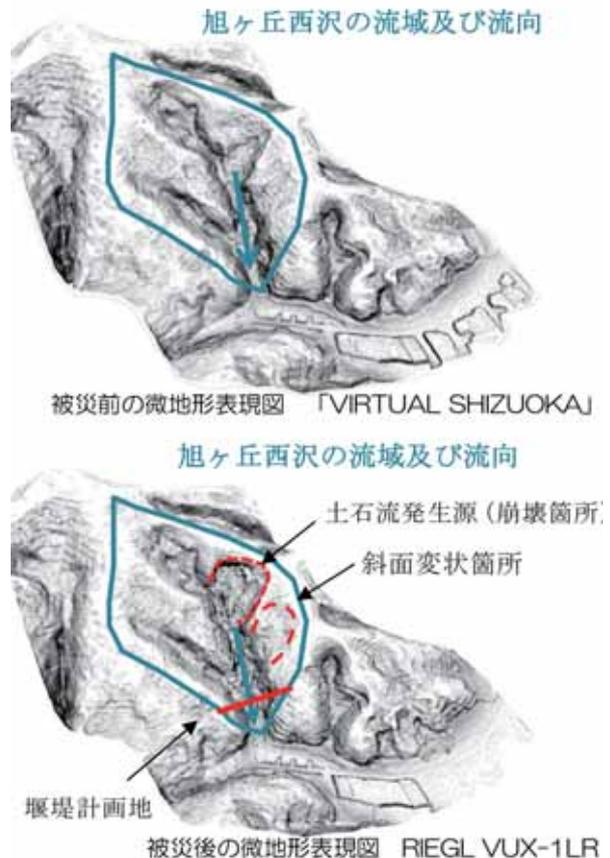


図-3 土砂発生予測基本図 特許第7153330号
（上：被災前、下：被災後）

発災から5日後にはUAVによる3次元レーザ計測を行い、7日後にはUAV成果による土砂災害予測基本図を作成することができた。

図-3上図に示した被災前と比較して、下図の被災後は、源頭部付近の馬蹄形地形付近で崩壊が新たに発生している様子が確認できる。崩壊に伴う土砂が、降雨によって流出し土石流化したものと推定できる。

土砂災害予測基本図の分析を進めた結果、堰堤計画位置の左岸側には被災前の源頭部と同様の馬蹄形地形が存在していることが判明した。その後、現地を確認した結果、多数の段差地形や表層崩壊跡があり、斜面変状箇所であったことが確認できた。

土砂災害予測基本図を用いたことで、予め現地調査の必要な範囲・箇所を絞ることができ、調査に必要な作業手間を削減することができた。さらに、堰堤の設計にあたり留意すべき流域の

状況も迅速に把握することができた。

土砂災害予測基本図は、被災前後の地形状況が短時間で比較可能となる上、崩壊箇所等の地形の変化も比較的容易に判断しやすく、土石流の発生機構の要因推定に大いに役立った。また、関係者間で精度の高い情報を迅速に共有できることにも役立った。

②土砂量及び流木量の算定にUAVを活用

災関事業は、今回の台風で発生した崩壊及び土石流により生産され、溪流内に堆積している土砂のみが対象となる。砂防堰堤の規模を決定する際には、この土砂量を把握する必要がある。

従来の土砂量の調査方法は、流域全体の現地調査を行い、支川ごとに横断方向の堆積深さ及び堆積幅を計測し、堆積断面積を求め、平均断面法により算定を行っている。また、流木量においても、現地で樹木の本数の確認を行い、算定を行っている。これらの作業は多大な時間を要する。

そのため本業務では、3次元点群データから差分解析図を作成し、被災前後の地盤高の変化量から土砂量の算定を行った。これにより、従来の調査方法に比べて短期間での算定が可能となった。3次元点群データの精度は10cm程度以下であり、土砂量の算出においては、従来の方法とほぼ同程度の精度が期待できる。

流木量の算定においては、当該箇所の上空が開けていて空撮に有利な現場条件であったことから、UAVで撮影した画像を用いて、上空からの画像により樹木の本数の確認を行った。倒木の数が多かったため、撮影画像による方法を用いたことで、短期間での算定が可能となった。

2) 迅速かつ効果的な応急対策の検討

(応急土石流ガードの採用)

従来は、発災後の応急対策工として経験的に大型土のうが採用されてきた。しかし、流体力の大きな土石流が大型土のうに衝突した際には、土のうの転倒や破断等が生じる可能性がある。本溪流は、直下流に人家が近接しており、溪流内の土砂や流木が流出した際に確実に捕捉でき

る応急対策工を検討する必要がある。また令和5年12月末までに設置を完了させるという時間的な制約もあった。

そこで本溪流では、上記の制約を踏まえて、「応急土石流ガード」を採用する事とした。応急土石流ガードは、鋼製かご枠の中に大型土のうを設置することで大型土のうを一体的な構造とした施設である(図-4)。他工法と比較して、経済性には劣るもの、以下に示す理由により、本工法を採用した。

- ① 静岡県内に資材のストックがあり、速やかに資材の手配が可能(納期10日)で、施工も早い(工期7日間)。
- ② 土石流の流体力に対応可能な構造となっており、土石流の流下を確実に捕捉できる。
- ③ 複数の鋼製かご枠の規格を組み合わせることで、現地の溪床幅に合わせた設置が可能であるため、資材の加工手間が不要である。
- ④ 鋼製かご枠の中詰め材に使用する大型土のうには、崩壊土砂の利用が可能である。応急対策工は、予定した期日までに完了することができた。



図-4 完成した応急土石流ガード

3) 堰堤計画地上流の斜面変状箇所への対応

(袖部処理工による斜面脚部掘削の最小化)

砂防堰堤の袖部は、堰堤の支持、固定、滑動、洗堀に対する抵抗力の改善、安全度の向上を目的に堰堤横断方向に岩盤部では1～2m、土砂部では2～3mの嵌入(かんにゅう)を行う必要がある。しかしながら、急斜面においては、袖部嵌入のために大規模な掘削をせざるを得ないことがある。今回のケースにおいても、袖部を嵌入させた場合には、地山掘削による影響範囲が左岸側の斜面変状箇所に影響することが想定され、斜面の不安定化が懸念される。

そこで、「袖部の地山への嵌入を確保」することの代替案として、「砂防堰堤の袖部処理の特例」として採用事例のある「袖部処理工」を提案した。

袖部処理工は、図-5に示すように、袖部を地山へ嵌入させる代わりに、下流方向に嵌入深の1倍以上、上流方向に3倍以上のコンクリートを設置する工法である。この工法は、地山の掘削量を削減できるとともに、掘削に伴う周辺への影響を最小化できる効果がある。一方で、本工法の静岡県内での採用事例はなかった。

通常採用する袖部嵌入方式と比較して、①施工性に優れること、②経済性に優れること、③地山の不安定化を防ぐことができることの3点を理由に、発注者と密に協議を行い、袖部処理工を採用した。採用により、斜面変状箇所へ掘削影響が及ぶことを回避し、施工中の安全確保が実現できた。

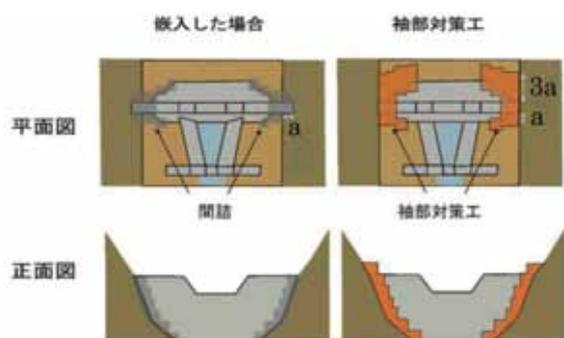


図-5 袖部処理工イメージ
中部地方整備局砂防施設設計要領より

4. おわりに

本設計の中で採用した3次元点群データや応急土石流ガード、袖部処理工といった新たな技術・工法についての効果、評価を以下に列記する。

①3次元点群データを用いた土砂災害予測基本図は、土石流発生要因の推定、留意すべき斜面変状箇所の迅速な把握につながった。写真や等高線の情報から斜面変状箇所を判断する従来の方法に比べ、この技術は、比較的経験の浅い技術者の判断を助けるとともに、関係者間での意思疎通に大いに役立つと考えられる。②差分解析図は、短期間での土砂量の算定につながった。溪流内に堆積した土砂のみを対象とする災関事業においては、発災前後の地形を短時間で把握できる差分解析図の作成が、非常に効果的な手法であった。③応急土石流ガードの活用は、スピーディーな施工と確実な土砂・流木の捕捉につながり、袖部処理工の活用は、斜面変状箇所への掘削影響の最小限化及び施工中の安全確保につながった。

一方で、新技術や新工法は、先行事例が少なく、導入自体が課題となることが多く、導入の効果を明確にした上、発注者への丁寧な説明、密な協議が求められる。

しかしながら、これらの技術は課題解決とともに生産性向上にもつながることから採用する効果は非常に大きい。今回の事例では、袖部処理工や応急土石流ガードは、地山の掘削量の削減・建設発生土の発生抑制につながった。加えて、3次元点群データから作成した土砂災害予測基本図を用いたことで、現地調査前に事前に留意すべき斜面変状箇所が把握でき、現地調査の効率化につながった。このことは、環境負荷低減や循環型社会の構築、担い手不足が進む中での生産性向上といった社会課題の解決の一助になったと考えている。今後も積極的に新技術や新工法の活用検討並びに生産性向上に取り組んでいきたい。

令和6年9月時点で、本堤及び前庭保護工の一部が完成しており、本年中には竣工予定である。

『流域治水への取組～田んぼダム候補地検討～』

株式会社フジヤマ 地理空間調査部

伊藤 耕二

伊藤 善文

1. はじめに

近年、気候変動や大雨による水害が頻発化、激甚化しており、ここ数年、毎年のように大きな水害が発生している。このため、静岡県および浜松市では治水行政の動向を踏まえ、流域のあらゆる関係者が協働する流域治水の取組を推進し、持続可能で自然災害に強い安全・安心なまちづくりを目指し浸水被害の軽減を図っている。

本業務は農業分野において、水田の貯留機能を活用した「田んぼダム」実施流域の優先順位を整理するとともに、浸水エリアに対する有効性の高い実施区域を選定するため、図-1の選定情報を収集し、とりまとめを実施した。

<業務概要>

- (1) 業務名称：令和5年度 かんがい排水整備市単独事業田んぼダム調査検討業
- (2) 発注者：浜松市
- (3) 調査場所：浜松市浜名区尾野 地内外
- (4) 履行期間：令和5年6月30日～令和6年3月22日

2. 候補地選定

2-1. 「田んぼダム候補地展開図」の作成

候補地選定に先立ち、県や市の関係部局が所有する農地情報や浸水被害履歴データなどをGIS上に展開（図-1参照）した。「田んぼダム候補地展開図」を作成した。（図-2参照）

図面種別（レイヤ）
ほ場整備事業エリア
土地改良総合整備事業エリア
多面的機能支払交付金取組活動エリア
現況（田、畑）
農林事務所選定エリア
人口集中地区エリア
河川流域界
1,2級河川網図
H27からR4までの浸水実績範囲

図-1 選定情報



図-2 GIS展開図

2-2. 実施区域の選定

対象地区の選定条件（「ふじのくに田んぼダム導入マニュアル」）は、下記のとおり。

- (1) 流域治水プロジェクト等の治水対策に関する計画に位置付けられた地域
 - (2) ほ場整備等の土地改良事業が実施された地域
 - (3) 湛水被害が見込まれる地域又はその上流域
 - (4) 多面的機能支払交付金取組地域
 - (5) 主に水稻栽培を行う地域
 - (6) 流域における水田面積の割合が大きい地域
 - (7) 下流河川の背水の影響を受けない地域
- さらに、「田んぼダム」実施区域選定時の優先度を下記の2点とした。

- (1) 過去の浸水被害で流域の自治会等から治水対策について強く要望を受けている地域
- (2) 過去に土地改良事業を実施し、水田が多く残っており大規模農家により営農が継続され、下流域の浸水被害軽減効果域における水田面積の割合が大きい地域

以下の条件をもとに、各地区の耕作者に説明をした上で、協力して頂ける地区5地区（図-3、図-4参照）を選定した。

地区	多面的活動組織	図上面積 ha
地区(A)	地区(A) 環境保全会	17.1
地区(B)	地区(B) 農地・水・ 環境保全会 地区環境保全会	46.1
地区(C)	地区(C)	40.0
地区(D)	地区(D) 農地保全会	49.3
地区(E)	地区(E) 水利組合 UH 農地保全会	22.8
合計		175.3

図-3 実施地区一覧



図-4 実施区域一部（航空写真撮影）

3. 選定に向けた検討事項と関連する現地調査

3-1. 検討事項

「田んぼダム」実施のためには、下記3点の検討が必要であった。

(1) 十分な高さ（30cm程度）のある堅固な畦畔
田んぼダムを計画する水田では、十分な高さのある堅固な畦畔が必要である。畦畔の高さが低いと貯留できる水量が少なくなり堅固でなければ漏水し、畦畔が損傷する。

(2) 貯留した雨水を迅速に排水できる落水口
田んぼダムでは、貯留した雨水を短時間で排水できる落水口が必要であり、貯水した水を短時間で排水できなければ農業機械を活用した農作業等に影響を与える恐れがある。

(3) 降雨や落水口に合った流出量調整装置
想定する降雨に対して雨水貯留機能を発揮し、貯留した水を短時間で排水するには水田の落水口や想定する降雨に応じて適切な流出量調整装置（図-5参照）の検討が必要となる。



図-5 流量調整器具

3-2. 現地調査での確認事項

対象の田んぼについて、以下の実態を確認した。

(1) 畦畔高さの確認

水田を囲む4方向の畦畔の一番低い箇所を目視で選定し、水田底から畦畔までの高さ（比高差）を計測した。同時に隣接する水田の畦畔も計測した。

(2) 落水口の材質・形状等の確認

- ・落水口の材質（コンクリート）
- ・サイズ（内径 縦、横、口径）
- ・スリット（せぎ板）の有無（寸法）
- ・落水口の種類（区分）

4. 課題

どのような業務においても、現地状況調査は重要な役割を果たしている。しかし、調査員が多くなればなるほど、調査結果の精度や一貫性を確保することが課題となる。本調査でも、複数人で実施する現地調査作業時の情報収集精度の均一化及び統一化が課題であった。

5. 対応策・工夫等

5-1. モバイルGISの活用

情報収集精度の均一化・統一化に加えて、効率的な現地調査や内業作業の効率化、現地作業における事故リスク削減、情報の紛失防止等の効果にも期待して、モバイルGIS（図-6参照）を活用した作業手法を採用した。



図-6 モバイル端末

5-2. クラウドサーバーの活用

モバイルGISのデータは、クラウドサーバ上

に保存し、モバイル端末やデスクトップPCのブラウザからアクセスする仕組みを採用した。これにより、モバイル端末のGPS機能を利用して現地調査時に位置情報を取得した。

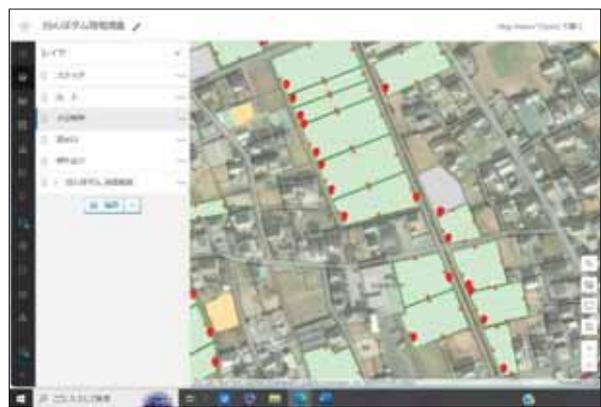
モバイルGISのデータレイヤは、通常利用しているデスクトップPC版GISと同様に背景図、調査グループ担当範囲（区域）等レイヤの切り替えに加え、調査ポイント（写真データ登録）の登録編集機能を搭載している。

さらに、モバイルGISの端末はスマートフォンとし、複数台で同時に運用することにより調査期間の短縮を図った。

5-3. 調査進捗状況をWebブラウザで常時確認

現地調査での不明点やリアルタイムでの進捗状況を社内のWebブラウザ（図-7参照）から常時確認できることとした。これにより、調査位置や現地写真を随時確認することができ、現地調査時の不明箇所や経験不足の調査員へのフォローアップが可能となった。また調査箇所が確認できることにより、日々の進捗把握も容易となった。

図-7 Webブラウザ



5-4. バラツキ防止のための事前トレーニング

全調査員を対象に、現地作業仕様書に基づきモバイルGISの事前トレーニングを調査前に現地で実施した。使用方法やデータ記録方法、位置誤差の修正方法等を教育した。また、調査員ごとの調査精度を検証・評価し、調査内容のばら

つきを確認した上で調査を実施した。このことより均一化されたデータを取りまとめることができた。

6. 成果の概要

水田畦畔高および落水口形状、位置などの現地調査結果をGISソフトで図面化した。図面では畦畔高さ30cmを境としてラインの色分けを行い、計測した数値を畦畔に沿って明示した。これにより、畦畔高さの高低を把握するとともに、どの水田のどの畦畔を改良するべきか一元的に確認できる。(図-8参照)

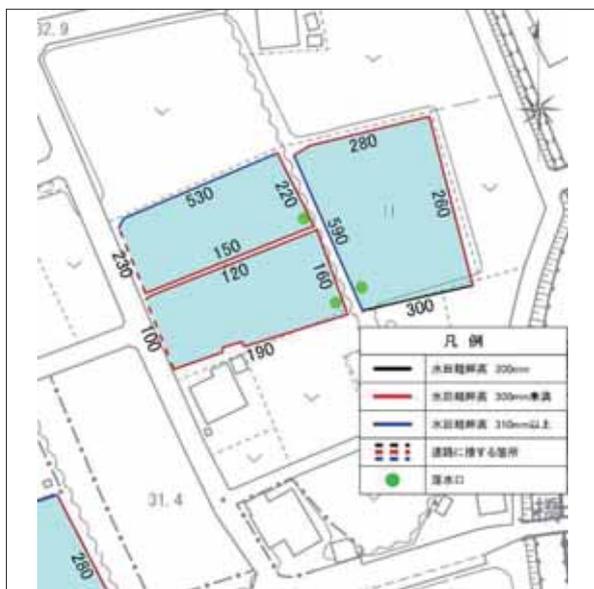


図-8 成果図面

落水口形状は、現地撮影写真と施設の材質、寸法(内径 縦、横、口径)(図-9参照)、および形状別の断面図をタイプ別にとりまとめた。このことにより、落水口のまとめりや次に展開される改修計画検討時等に活用されることとなる。

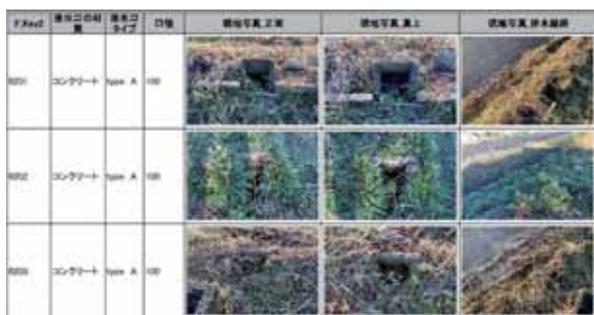


図-9 落水工現地写真

6. おわりに

地区選定におけるGISデータの展開や現地調査でのモバイルGISなどの空間情報技術の活用により、業務の準備・データ収集・現地調査・とりまとめの効率が、①従来の手法と比較し約20%向上した。また、②現地計測内容がGISデータにそのまま展開できることより、不要な入力作業が削減され、成果品となる図面作成が容易となった。

「田んぼダム」の選定調査の効率化には、畦畔高の計測箇所数の削減が不可欠である。削減のカギとなるのが静岡県のVIRTUAL SHIZUOKAの点群データや国土地理院の航空レーザーによる詳細な標高数値モデル(1m)である。しかし、標高数値モデル(1m)データに関しては公開が一部に留まっている。将来的に、公開範囲が拡大されれば、畦畔高の計測箇所数の削減に寄与し、コスト削減と品質向上に貢献できると考える。

今後、畦畔を改良した「田んぼダム」の効果検証業務に携われば幸いです。

参考文献

- 1) 田んぼダム手引き農林水産省農村振興局整備課
- 2) ふじのくに「田んぼダム」導入マニュアル 静岡県農地局農地計画課
- 3) 天竜川(下流)水系流域治水プロジェクトの策定について 天竜川(下流)流域治水協議会
- 4) 天竜川水系安間川水害対策プラン 浜松市域流域治水対策推進協議会
- 5) 馬込川水系馬込川上流・中流水災害対策プラン 浜松市域流域治水対策推進協議会
- 6) 浜松市総合雨水対策 浜松市

本稿の執筆にあたり、データの掲載を許可していただいた浜松市様に深く感謝いたします。

静測協図書館

令和6年度 応募作品一覧

No	分野	専門技術部門	作品名	会社名
1	測量	その他	AI画像解析を用いた固定資産評価情報の異動判読	(株)フジヤマ
2	測量	その他	測量分野でのセンチメートル級測位補強サービス (CLAS) の利活用	(株)フジヤマ
3	補償	その他	背負い型3Dレーザースキャナーを活用した立竹木調査 (試行)	(株)フジヤマ
4	設計	道路	災害復旧工事中に発生した床掘斜面崩壊に対する対応	(株)フジヤマ
5	調査	河川、砂防及び 海岸海洋	土石流発生箇所における砂防堰堤調査・計画・設計事例	(株)フジヤマ
6	測量	防災・減災	流域治水への取組 ～田んぼダム候補地検討～	(株)フジヤマ
7	設計	河川、砂防及び 海岸海洋	東京都における都市型水害への取組み (将来の気候変動を見据えた治水対策)	(株)フジヤマ
8	維持 管理	防災・減災	道路防災点検におけるDX ～リスク低減と作業の効率化～	(株)フジヤマ
9	調査	土質及び基礎	田子の浦港 浚渫土砂「脱水処理土」の 建設材料への利用検討	(株)東日

 水色の作品は優秀作品として掲載しています。

謹賀新年

Surveying system 2025

謹んで新年のお慶びを申し上げます。
旧年中は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。
本年も宜しくお願い申し上げます。

[測る]の総合商社

静岡県測量設計業協会 賛助会員

トプコンソキアビジネスパートナー店

株式会社サーベック

〒433-8122 静岡県浜松市中央区上島1-11-28 TEL:053-474-0150 FAX:053-474-0157



(株)豊富



豊富ドローンスクール

株式会社豊富 TEL 054-247-6576



- ▶ 測量ソフト、機器、販売レンタル
- ▶ ドローンスクール運営
- ▶ ドローンの販売、メンテナンス、サポート
- ▶ 測量士資格者在籍
- ▶ 英語による講習会も対応
- ▶ ドローンによる空撮、豊富な3次元測量経験
- ▶ 静岡市消防局様訓練実績
- ▶ 静岡県警察様訓練実績
- ▶ 静岡県建設業協会、各自治体講習実績
- ▶ 国際航業株式会社パートナー企業
- ▶ 株式会社エスパルスパートナー企業





Trimble S7

測量、イメージング、3Dスキャンを統合した、多機能トータルステーション



Trimble SX12

TS、3D スキャナ、イメージャーが融合。点群を利用した公共測量で活躍



GoSLAM RS100i

簡単・快速・高精度の LidarSLAM 誰でも簡単操作、ドローン等の補完にも◎



SightFusion

AI搭載コンクリートひびわれ画像計測カメラの設定・ひびの検出はあまかせ

Trimble が提案する最新ソリューションで 日々の測量作業を革新

いつでも、どこでも、新しい測量体験を。

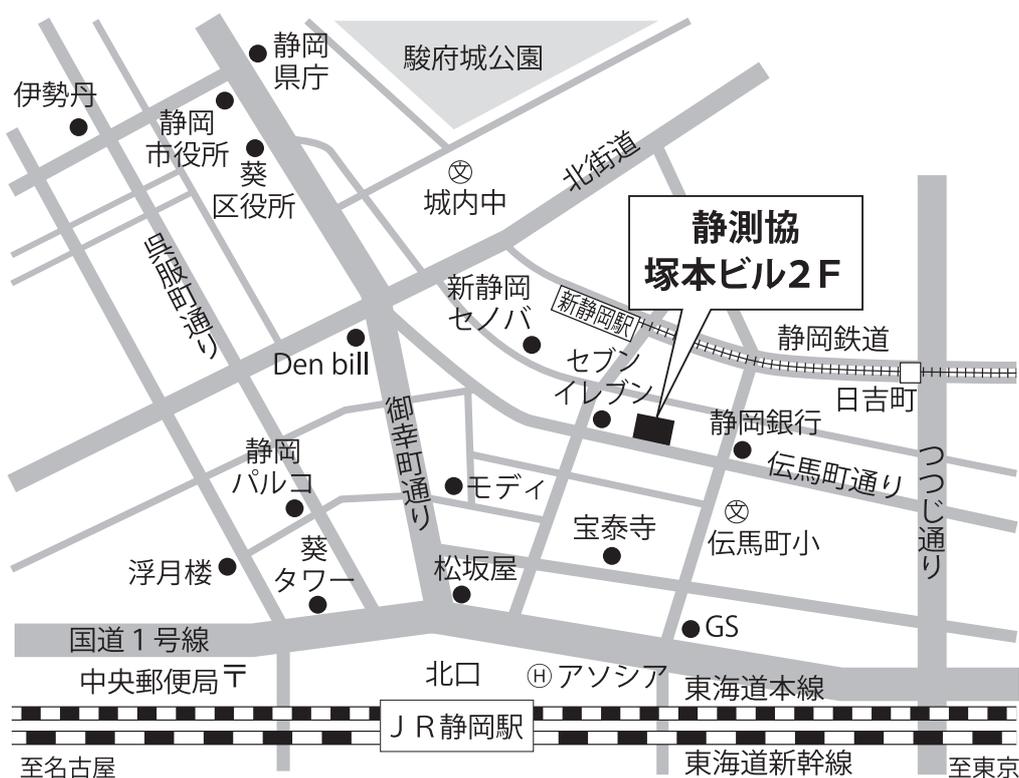
株式会社トリンプルパートナーズ神奈川・静岡

<http://www.trimble-partners.jp>

本社 〒241-0813
神奈川県横浜市旭区今宿町 2659-4
TEL: 045-367-2460 FAX: 045-367-2461

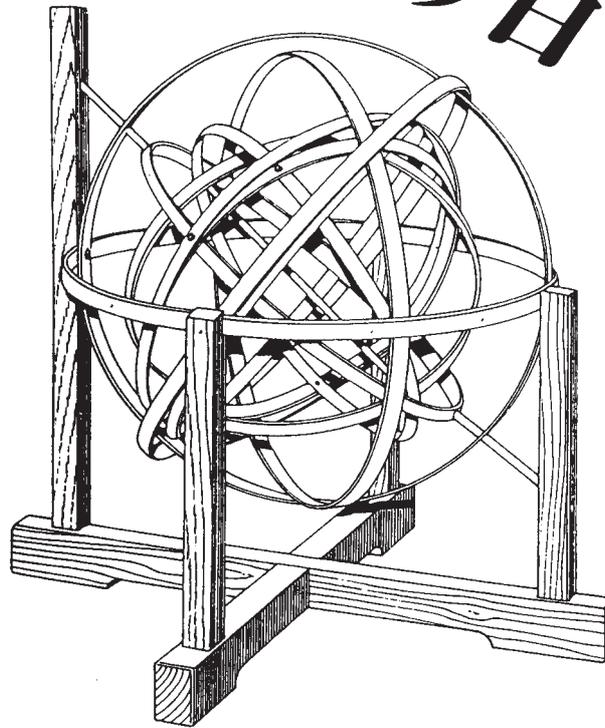
静岡営業所 〒412-0045
静岡県御殿場市川島田 665-1 2F
TEL: 0550-78-7262 FAX: 0550-78-7355

(一社) 静岡県測量設計業協会 位置図



J R 静岡駅から約500m 徒歩10分

6月3日 測量の日



伊能忠敬記念館所蔵の測天儀

測天儀は、天体の位置を測定する器具で、太陽と月の向きなどを説明するため、数個の環が理論的に巧みに組み合わされています。

主 唱 国 土 交 通 省
推進主体 「測量の日」実行委員会

「測量の日」とは

いつ? 6月3日

現在の測量法は昭和24年6月3日（法律第188号）に制定されました。満40年となった平成元年に、当時の建設省の主唱で6月3日を「測量の日」と決めました。

なぜ? 測量・地図を多くの人に知って頂くために

測量は国土の利用、社会資本の整備等国民生活の安全性・快適性の向上に重要な役割を果たしてきましたが、測量についての国民の認識や社会的評価が必ずしも高いとはいえ、測量成果が不適切に扱われている問題も生じていました。そのような状況の中で、国民に対し、測量における知識の普及・啓発を図るため「測量の日」が設けられました。

いつから? 平成元年から

私達の生活に必要不可欠である測量の意義・重要性について、国民の理解と関心を一層高めることを目的に、国の機関や関係団体が関係機関の協力を得て、平成元年から毎年「測量の日」を中心に、全国各地で各種行事等の活動を行っています。



「測量の日」は、6月3日。
「測量法」が昭和24年6月3日に
制定されたことに基きます。



測量の日キャラクター「マッピー」

役員名簿

役職名	氏名	会社名等	事業分担
顧問	井林辰徳	衆議院議員	
顧問	細野豪志	衆議院議員	
相談役	藤山義修	(株)フジヤマ	
会長	服部剛明	服部エンジニア(株)	総務委員会委員長 積算システム運営委員会委員長
副会長	牧田敏明	不二総合コンサルタント(株)	筆頭副会長(会計担当) 倫理委員会委員長 西部支部長
副会長	亀谷寧一	(株)スルガコンサル	中部支部長
副会長	齋秀之	(株)東海建設コンサルタント	東部支部長
専務理事	望月良明	(一社)静岡県測量設計業協会	事務局長
理事	竹内豊和	竹内測量設計(株)	広報・経営改善委員会委員長
理事	勝間田賢一	(株)駿河調査設計	企画委員会委員長
理事	荒山晃	昭和設計(株)	技術委員会委員長
理事	豊田哲也	(株)中部総合コンサルタント	調査委員会委員長
理事	二村繁靖	静岡コンサルタント(株)	災害対策委員会委員長
監事	宮島直久	(株)技研測量	
監事	鍋田昌吾	鍋田昌吾会計事務所	

会 員 名 簿

正 会 員

会 員 名	代表者名	〒	所 在 地	電話番号 FAX番号
(株) ウィンディー ネットワーク	杉 本 憲 一	415 -0035	下田市東本郷1丁目7-17	0558-22-1511 0558-23-4483
(有) 渡辺測量事務所	櫻 井 廣 信	415 -0035	下田市東本郷1丁目9-10	0558-22-0550 0558-22-5975
静岡コンサルタント(株)	二 村 繁 靖	411 -0804	三島市多呂128	055-977-8080 055-977-8600
鈴木設計(株)	鈴 木 達 美	411 -0803	三島市大場311-1	055-977-1488 055-977-4594
東亜測量設計(株)	水 口 香 織	411 -0822	三島市松本8-2	055-977-6500 055-977-4310
RBコンサルタント(株)	土 田 哲	410 -2321	伊豆の国市三福52-1	0558-76-7789 0558-76-7771
総合開発技研(株)	渡 邊 正 美	410 -2211	伊豆の国市長岡359-2	055-947-2061 055-947-2081
(有) 中野測量設計事務所	中 野 順 一	410 -2401	伊豆市牧之郷53-6	0558-74-1212 0558-74-1213
東 和 設 計 (株)	稲 葉 洋 行	419 -0125	田方郡函南町肥田193-10	055-978-3984 055-979-4730
キューメートル(株)	望 月 信 助	410 -0022	沼津市大岡497	055-922-3977 055-921-9899
(株) 建 友	諏訪部 政 誉	410 -0003	沼津市新沢田町24-27	055-922-2601 055-923-1068
(株) サンアイ技研	鈴 木 元 好	410 -0306	沼津市大塚871-2	055-967-5544 055-967-5509
伸東測量設計(株)	高 橋 誠	410 -0053	沼津市寿町5-3	055-922-1211 055-921-8190
新日本設計(株)	門 奈 英 治	410 -0001	沼津市足高547-2	055-924-2801 055-924-2803
(株) 東 海 建 設 コンサルタント	齋 秀 之	410 -0811	沼津市中瀬町5-1	055-931-0625 055-932-7170
(株) 東 日	芹 澤 秀 樹	410 -0022	沼津市大岡2240-16	055-921-8053 055-924-8122
中央建コン(株)	田 中 弘 文	412 -0045	御殿場市川島田598-1	0550-70-9595 0550-70-9596
(株) ア ク ト	芹 澤 浩 之	412 -0045	御殿場市川島田136-10	0550-82-2596 0550-82-2031
(有) 小林技建興業	小 林 和 哉	412 -0011	御殿場市古沢613	0550-83-1501 0550-84-1542
(株) 駿河調査設計	勝間田 賢 一	412 -0045	御殿場市川島田1921-4	0550-89-5570 0550-89-3192
(株) 滝口測量設計	滝 口 豪	412 -0018	御殿場市山之尻1202-2	0550-82-3351 0550-82-2197

会 員 名	代表者名	〒	所 在 地	電話番号 FAX番号
東 静 測 量 設 計 (株)	鈴 木 正 明	411 -0941	駿東郡長泉町上土狩451-10	055-987-2552 055-987-5625
(有)青木測量設計事務所	高 柳 壽 一	416 -0945	富士市宮島28-43	0545-63-4592 0545-63-7914
(株)協和工務店	鈴 木 淳	417 -0052	富士市中央町1丁目8-19	0545-52-1528 0545-52-3121
(株)土屋測量設計	土 屋 孝	416 -0909	富士市松岡459-1	0545-61-7806 0545-64-8406
(株)富士測量事務所	杉 山 博	417 -0055	富士市永田町1丁目122	0545-51-0867 0545-51-2284
東海技術開発(株)	遠 藤 米 子	418 -0063	富士宮市若の宮町732	0544-27-8424 0544-24-4013
富 士 設 計 (株)	小野寺 敦 嗣	418 -0022	富士宮市小泉468-1	0544-26-5191 0544-26-8969
富士エステート測量(株)	後 藤 真 典	419 -0312	富士宮市下稲子979-1	0544-29-3260 0544-29-3261
(株)建設コンサルタント セ ン タ ー	小 田 秀 昭	424 -0064	静岡市清水区長崎新田123	054-345-2155 054-348-2585
国 土 計 画 (株)	佐 塚 弘 行	420 -0816	静岡市葵区沓谷5丁目8-18	054-261-4885 054-263-0287
(株)静岡都市設計	中 村 克 行	420 -0913	静岡市葵区瀬名川3丁目19-1	054-262-2819 054-264-0850
昭 和 設 計 (株)	荒 山 晃	420 -0006	静岡市葵区若松町41-1	054-252-1820 054-252-1840
(株)スルガコンサル	亀 谷 寧 一	422 -8072	静岡市駿河区小黒3丁目6-23	054-282-4026 054-284-6651
(株) 大 胡	大 胡 忠 信	420 -0034	静岡市葵区常磐町3丁目4-18	054-255-2305 054-255-2304
(株)ツルタコンサルタント	鶴 田 淳	420 -0813	静岡市葵区長沼524-1	054-261-1555 054-264-1039
(株)トップエンジニア	小 幡 晴 代	422 -8046	静岡市駿河区中島626-9	054-283-9130 054-283-9131
(株)日本地理 コ ン サ ル タ ン ト	山 田 巧	420 -0801	静岡市葵区東千代田1丁目6-20	054-261-6956 054-262-1429
服部エンジニア(株)	服 部 剛 明	420 -0052	静岡市葵区川越町3-9	054-251-2323 054-253-1213
旭 測 量 設 計 (株)	見 崎 俊 弘	425 -0066	焼津市大島206-4	054-624-0777 054-623-8630
(株)奥平測量設計事務所	奥 平 慎 太 郎	426 -0071	藤枝市志太4丁目10-24	054-643-7312 054-644-6661
大 鐘 測 量 設 計 (株)	塚 本 好 明	427 -0042	島田市中央町31-10	0547-36-0706 0547-36-1153
(株)グリーン	坂 口 茂 巳	427 -0057	島田市元島田9608-7	0547-37-1217 0547-37-1219
(株)FBJコンサルタント	福 島 吉 衛	427 -0011	島田市東町636	0547-35-5081 0547-35-5082
(有)二葉測量設計事務所	泉 地 達 也	421 -0422	牧之原市静波1785-9	0548-22-4771 0548-22-5292

会 員 名	代表者名	〒	所 在 地	電話番号 FAX番号
(株)松井測量設計事務所	松 井 藤 雄	428 -0104	島田市川根町家山1138-3	0547-53-2589 0547-53-4141
(株)共和コンサルタント	杉 本 洋	435 -0035	浜松市中央区西伝寺町298	053-411-6500 053-411-6501
(株)技研測量	宮 島 直 久	433 -8112	浜松市中央区初生町978-12	053-437-0333 053-437-0787
(株)松和技研	木 俣 清 一	430 -0939	浜松市中央区連尺町314-31 アーバンスクエア浜松ビル9階	053-415-8131 053-415-8143
(株)中部総合 コンサルタント	豊 田 哲 也	430 -0946	浜松市中央区元城町222-2 元城ビル3-A	053-458-7080 053-458-7081
(株)殿村	殿 村 元 秀	432 -8042	浜松市中央区上浅田2丁目5-10	053-453-1129 053-453-1316
(株)日進	石 黒 一 彰	433 -8119	浜松市中央区高丘北1丁目60-32	053-436-6255 053-436-6011
不二総合 コンサルタント(株)	牧 田 敏 明	433 -8112	浜松市中央区初生町889-2	053-439-6111 053-439-6129
(株)フジヤマ	藤 山 義 修	430 -0946	浜松市中央区元城町216-19	053-454-5892 053-455-4619
吉田測量設計(株)	石 野 直 之	435 -0004	浜松市中央区中野町317-1	053-422-3040 053-422-3028
田内測量設計(株)	大 場 保 弘	430 -0907	浜松市中央区高林3丁目13-25	053-401-2082 053-401-2083
竹内測量設計(株)	竹 内 豊 和	431 -1414	浜松市浜名区三ヶ日町三ヶ日756	053-525-0342 053-525-1970
(株)ケイプロローグ	景 山 友 貴	436 -0021	掛川市緑ヶ丘2丁目8-5	0537-28-8386 0537-28-8387
(株)アクシス	青 野 充	432 -8001	浜松市中央区西山町764番地の1	053-525-7172 053-525-7173

賛助会員

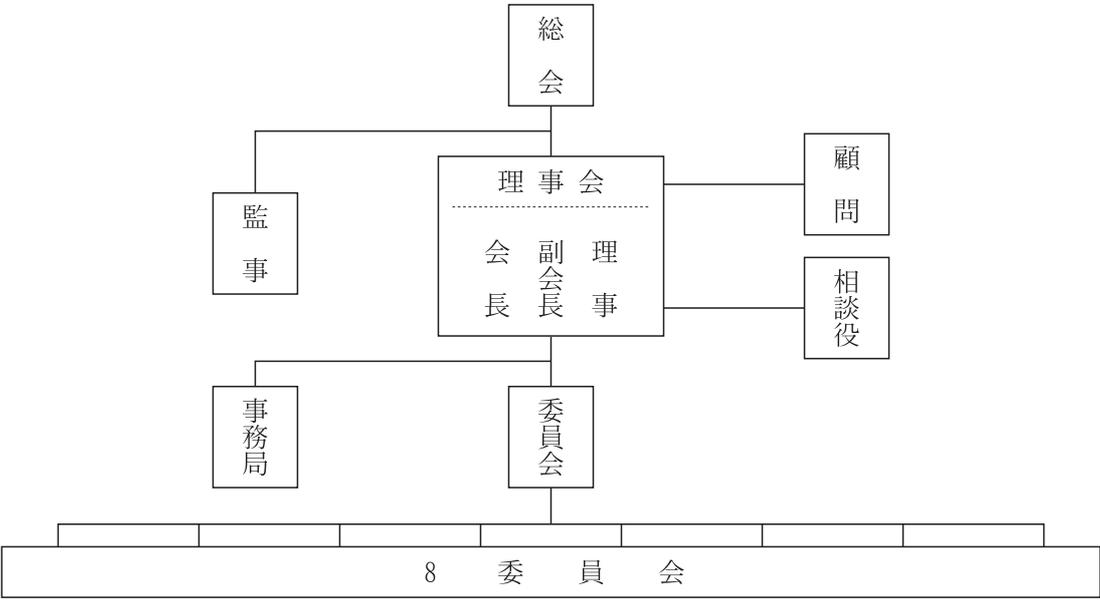
会 員 名	代表者名	〒	所 在 地	電話番号 FAX番号
(株)湯澤計器商会	湯 澤 玲一郎	420 -0868	静岡市葵区宮ヶ崎町80	054-245-6131 054-245-6135
(株)サーベック	鈴 木 大 滋	433 -8122	浜松市中央区上島1丁目11-28	053-474-0150 053-474-0157
(株)豊富	松 浦 睦 巳	420 -0882	静岡市葵区安東3丁目19-11-2	054-247-6576
(株)トリプルパートナーズ 神奈川・静岡営業所	大 石 宏 明	412 -0045	御殿場市川島田665-1 2F	0550-78-7262 0550-78-7355
(株)快適空間FC 静岡支店	鵜 飼 尚 弘	420 -0064	静岡市葵区本通7丁目2-27	054-204-0341 054-204-0342

一般社団法人 全国測量設計業協会連合会（全測連）

11地区協議会（中部地区協議会）

44都道府県測量設計業協会約2,600社（静岡県60社）

一般社団法人 静岡県測量設計業協会 組織図



委員会組織と業務分担

会長 代表理事 服部剛明	筆頭副会長 牧田敏明			
	総務委員会		<ul style="list-style-type: none"> 総会及び予算に関すること 入会・退会に関すること 関連団体との連携及び合同事務所の運営 他の委員会に属さない業務 	委員長 服部 剛明 委員 齋 秀之 委員 亀谷 寧一 委員 牧田 敏明
	総括副会長 亀谷寧一	広報・経営改善委員会	<ul style="list-style-type: none"> 「測量の日」の関連行事の推進及び啓蒙 会員名簿、機関誌の発行及び測量業（協会）の啓蒙 測量系CPD及び建設系CPDの再評価、活用方法、PR 経営改善に関する研修会、講習会 社長研修会 	委員長 竹内 豊和 委員 高橋 誠 委員 鶴田 淳 委員 石野 直之
		企画委員会	<ul style="list-style-type: none"> 委託業務の入札制度の研究（入札制度の改善要望） 測量設計業務の総合評価方式の調査研究 国、県、市町等に対する要望及び意見交換会の開催 測量士資格制度の調査研究 今後の測量設計業の展望に関する調査研究 	委員長 勝間田賢一 委員 大井 寿彦 委員 塚本 好明 委員 大場 保弘
	総括副会長 齋 秀之	技術委員会	<ul style="list-style-type: none"> 地域防災に関する測量・設計技術の研修会、講習会 静岡県CALS/EC推進協議会の委員 道路台帳の整備及び地籍調査事業の推進 国、県等の研修会への講師派遣 地理空間情報産学官中部地区連携協議会の委員 	委員長 荒山 晃 委員 鈴木 富博 委員 見崎 俊弘 委員 深民 泰弘
		調査委員会	<ul style="list-style-type: none"> 積算基準の改善及び歩掛改善要望（主に災害関連） 測量法による測量計画機関の事前手続き・歩掛調査研究 「土木積算S・E」に係る講習会及び試験の実施 新土木設計積算システムの利用促進 	委員長 豊田 哲也 委員 土屋 孝 委員 伊藤 孝浩 委員 石黒 一彰
		災害対策委員会	<ul style="list-style-type: none"> 災害協定の締結(市町)並びに協定内容の周知徹底 災害時における応援体制（災害対策本部の設置及び運営） 災害復旧事業に係る技術講習会 B C P（事業継続計画）の導入 	委員長 二村 繁靖 委員 上杉 和博 委員 奥平慎太郎 委員 景山 友貴
	倫理委員会		<ul style="list-style-type: none"> 独占禁止法遵守に関する啓蒙 独占禁止法遵守リーダー育成研修会 倫理綱領の遵守の啓蒙 	委員長 牧田 敏明 委員 亀谷 寧一 委員 齋 秀之
	積算システム運営委員会		<ul style="list-style-type: none"> 「土木積算S・E」の資格認定等 	委員長 服部 剛明 委員 牧田 敏明 委員 亀谷 寧一 委員 齋 秀之 委員 荒山 晃 委員 豊田 哲也

編集後記

新年あけましておめでとうございます。平素よりご愛顧いただいております発注機関の皆様をはじめ、協会関係者並びに協会の皆様には、お健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

機関紙「静測協2025新年号」をお届けします。

さて、近年我が国では地球温暖化による気候変動の影響により、自然災害が頻発化・激甚化しています。昨年元旦に発生した能登半島地震では、正月気分を一気に吹き飛ばされ、「地震はいつ起きるかわからない」と言う恐ろしさを改めて痛感しました。犠牲となられた方々にお悔やみを申し上げるとともに、被災されたすべての方々に心よりお見舞い申し上げます。また、現地におかれましては、被災地の復興支援のために昼夜を問わずご尽力されている方々に深く敬意を表します。

南北に長い日本では、毎年のように太平洋高気圧のまわりを回って北上する台風が襲来して記録的な豪雨をもたらし、甚大な被害が発生しています。これからは劇的な気候変動に対応した生活様式の転換や文化の継承、さらに建設業界でも脱炭素社会への取組みが重要です。

昨年6月、当協会は創立50周年を迎えることができました。まずはこの喜ばしい日を迎えられましたことをご報告いたしますとともに、関係機関の皆様や当協会の皆様に深く感謝申し上げます。当協会が創立されたのは1974年（昭和49年）です。この当時、我が国は厳しい不況下において異常なインフレに見舞われ、戦後初めてマイナス成長となり大変厳しい時代でした。また、スポーツ界では巨人の長嶋茂雄が「わが巨人軍は永久に不滅です」との言葉を残して現役を引退した年でした。

50年の歴史を振り返り、先人のご苦勞に感謝するとともに、現役世代としては学ぶべき考え方や教訓を経営に生かして、将来の発展に繋げていく所存です。

今後とも当協会の事業運営に引続きご支援ご協力を賜りますとともに、皆様方の益々のご活躍とご健勝を心からお祈り申し上げます。昨年は大変災害の多い年でした。今年は平穩無事な年になりますようお願いしております。

最後になりましたが、ご多忙中にもかかわらずご寄稿くださいました執筆者の皆様々に心より感謝申し上げます。

令和7年1月

編集 広報・経営改善委員会
担当副会長 亀谷 寧一
委員長 竹内 豊和
委員 高橋 誠
委員 鶴田 淳
委員 石野 直之

<測量設計業務の発注は、当協会員にお願いします。>

測量設計業は、社会資本の整備から維持管理まで、幅広い範囲で技術サービスを提供しています。わたしたち静測協は、豊かな県土づくり^{せいそくきょう}に貢献するため、さまざまな活動を展開しています。

一般社団法人静岡県測量設計業協会（^{せいそくきょう}静測協）

会長 服部 剛明 他 会員一同

〒420-0858 静岡市葵区伝馬町9番地の7（塚本ビル2階）

TEL 054-252-0322 FAX 054-251-7957

URL : <http://www.seisoku.or.jp/>

建通新聞

今だからこそ大切な情報を
リアルタイムで的確に掲載!
最新の情報をお届けします!

●公共工事
全国NEWSを

読む!

●入札NEWSで
きょうの行動を

決める!

●民間NEWSなど
県内の民間動向を

探る!

購読料金

6ヶ月

37,800円(税込)

※発行は月・水・金の週3回です。

建通新聞社 静岡支社

【静岡支局】 静岡市駿河区豊田1-9-34

TEL (054) 288-8121

【沼津支局】 沼津市平町18-20 川口第二ビル2F

TEL (055) 962-5167

【浜松支局】 浜松市中央区田町326-4 棒屋第4ビル3F

TEL (053) 453-0908

お問い合わせ・お申し込み

URL <https://www.kentsu.co.jp>



建通新聞社は「建設キャリアアップシステム」
(CCUS)の普及拡大を応援します!

楽らくアプロ 工事費算出 システムシリーズ

建設物価 BookStore 限定販売！
令和5年度版

土木&土地改良 諸経費編

土木 直接工事費編

下水道 直接工事費編

簡単操作で積算業務の効率化・標準化に役立つ『楽らくアプロ工事費算出システムシリーズ』（※書籍は付属しません。）各商品の特長をご紹介します！

土木&土地改良 諸経費編

2023年6月公開
9,900円（税込）

【システムの特長】

- 1) 施工時期、工事期間等を考慮した現場管理費の補正が入力可能に
・熱中症対策に資する現場管理費の補正など
- 2) 施工箇所が点在する工事の積算への対応（土木のみ）

土木 直接工事費編

2023年8月公開
29,700円（税込）

【システムの特長】

- 1) 「国土交通省土木工事標準積算基準書」に準拠
・国土交通省土木工事標準積算基準書の内容に準拠した体系ツリーと条件設定。
ユーザーが希望の条件を設定でき、それに伴う単価表の表示が可能。
- 2) 各工種施工条件別に施工数量から施工日数の算出が可能
・各施工単価の標準施工量データの搭載により、施工数量を入力することで
施工日数を算出することが可能。
- 3) 複合単価表（内訳書）作成機能が追加
・独自の単価表を複合単価（内訳書）として登録作成でき、複合単価としての
直接工事費の算出が可能。
各施工単価での作業日数についても積み上げられ、総施工日数も算出可能。

下水道 直接工事費編

2023年9月公開
9,900円（税込）

【システムの特長】

- 1) 下水道用設計標準歩掛表に準拠した体系ツリー収録
- 2) 複合単価表（内訳書）作成機能が追加
- 3) 工種施工条件別に施工数量から施工日数を算出する機能
（作業日当り標準作業量から算出）を追加

※ご利用にはインターネット環境が必須です。

※1台のコンピュータに限りインストールしてご利用いただけます。2台以上でご使用の場合は、追加で本システムをご購入ください。ただし、1台につき1ユーザーアカウントのみ使用できます。

 一般財団法人 建設物価調査会

お申込みは建設物価BookStoreから

販売業務代行 株式会社 建設物価サービス 名古屋営業所 TEL：052-961-3404 FAX：052-961-3405

単価情報のデータベースをWebで検索、表示、抽出、保存!

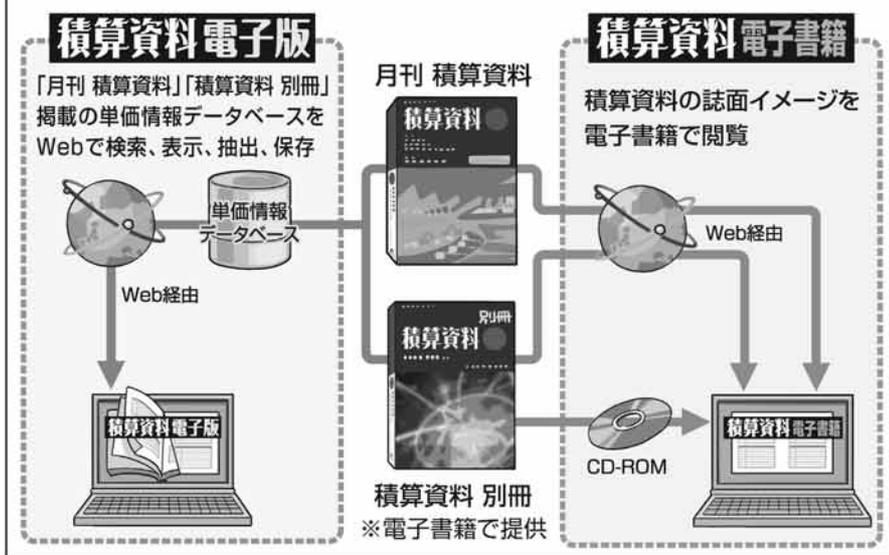
積算資料電子版

積算資料 + 積算資料別冊 別冊

年間契約料(税込)
50,160円/年12回(毎月)

静岡県内で電子版の採用拡大中!

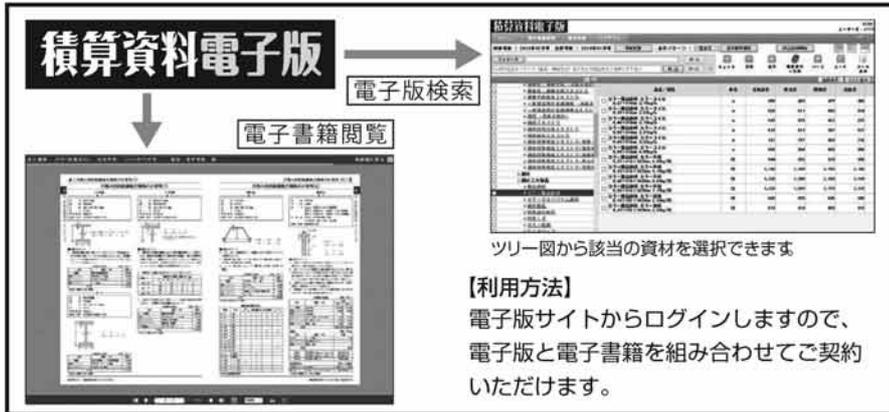
● 積算資料 利用イメージ



- ◆毎月18日頃提供
掲載単価は全て調査価格
約61,500規格を掲載
「月刊 積算資料」約52,300規格と「積算資料別冊」約9,200規格(2024年8月号時点)を全て調査価格で掲載
- (検索・絞込み)ツリー・フリーワード検索や都市・流通段階の絞込みが可能
(マイデータ)検索結果はExcelで出力・保存が可能(出力点数に上限あり)
(閲覧・印刷)表形式でのデータベース閲覧、月号比較、電子書籍での誌面閲覧と印刷が可能
- ・ID・パスワードのみで閲覧
1契約につき7ユーザーまでの登録
このうち3ユーザーの同時利用が可能

ログインは電子版サイトから!
専用閲覧ツールは不要!

価格情報誌電子書籍



- ◆毎月18日頃提供
〔電子書籍対象誌〕
- ・積算資料
- ・積算資料別冊
- ・土木施工単価
- ・土木施工単価の解説
- ・建築施工単価
- 〔主な機能〕
- ・品目名称でページ検索・印刷が可能
- ・ID・パスワードのみで閲覧
1契約につき7ユーザーまでの登録
このうち3ユーザーの同時利用が可能

(電子書籍のみ) 年間契約料(税込)	
積算資料 年12回(毎月)	40,920円
積算資料別冊 年12回(毎月)	9,240円
土木施工単価 年4回+解説(4月)	16,500円
土木施工単価 年4回(4・7・10・1月)	13,640円
建築施工単価 年4回(4・7・10・1月)	17,160円

(電子版+電子書籍) 年間契約料(税込)	
土木施工単価 年4回+解説(4月)	50,160円+16,500円
土木施工単価 年4回(4・7・10・1月)	50,160円+13,640円
建築施工単価 年4回(4・7・10・1月)	50,160円+17,160円

※1.電子版には積算資料と積算資料別冊の電子書籍がすでに搭載されています。
※2.セットで同一IDを希望の場合は、事前登録は7ユーザーまで。
同時利用は3ユーザーまで。

※単価情報データベースの検索はできません。

ER 一般財団法人 経済調査会

詳細・無料体験版・ご購入はこちら!
Bookけんせつ Plaza



●お申し込み・お問い合わせは

一般財団法人 経済調査会

TEL 03-5777-8222 FAX 03-5777-8237

定価・年間契約料は消費税10%を含む総額表示です。

6月3日は「測量の日」

発行所 一般社団法人 静岡県測量設計業協会
(せいそくきょう 静測協)

〒420-0858 静岡市葵区伝馬町9番地の7
塚本ビル2階

電話 〈054〉 252-0322

FAX 〈054〉 251-7957

URL: <http://www.seisoku.or.jp/>

発行日 令和6年12月18日

印刷所 池田屋印刷株式会社
電話 〈054〉 285-8275

